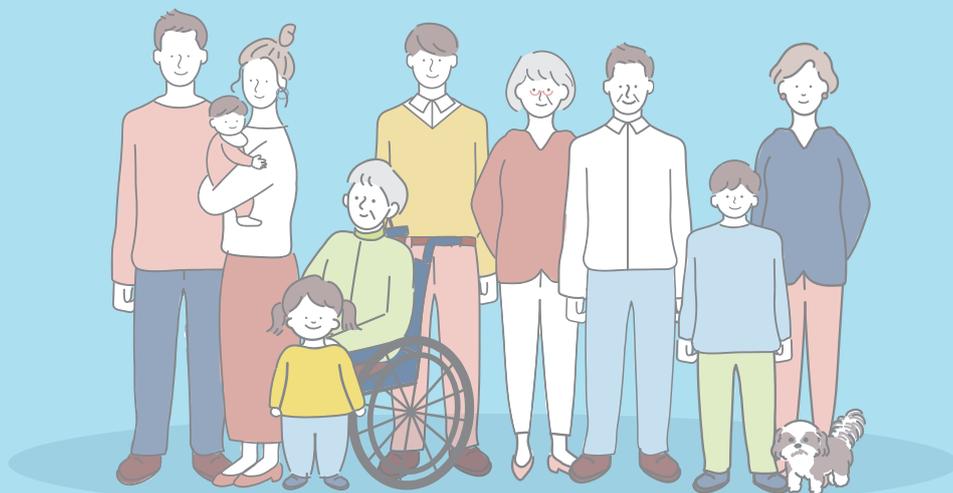


みんなであえあい 地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら

# 第10次 さがみはら 地域福祉活動計画

令和6年度（2024年度）～令和11年度（2029年度）

一人ひとりが活躍できる  
多様な縁づくり



社会福祉法人相模原市社会福祉協議会

## はじめに

市内に在住されていた漫画家、秋亀山先生(故人)が、相模原市民と市社会福祉協議会のために描いてくださった福祉マンガ「みんないいひと」。先生がこのマンガのタイトルを「みんないいひと」としたのは、「(市民は)『みんないいひと』。いいひとが集まれば、そこには当然いいことが生まれるはずである。それが『福祉』というものなんじゃないか。」と発想されたから、と伺いました。秋先生が描く「福祉マンガ」の登場人物は、皆、素直でおせっかいで、人情に篤い、本当に「いいひと」たちです。こんな「いいひと」たちが、手を携え、支えあうことで、誰もが、住み慣れた地域で、自分らしく生き生きと暮らし続けられる「温もりのある地域共生社会」が実現できる。これが「地域福祉の原点」なのではないでしょうか。



「第10次さがみはら地域福祉活動計画」では、策定に携わっていただいた皆さんとこんな想いを共有しながら議論を重ね、「相模原市地域共生社会推進計画」と連携を図りながら、「みんなで支えあい 地域の力が育む 人にやさしいまちさがみはら」を基本理念に、『一人ひとりが活躍する 多様な縁(参加)づくり』を目指すことといたしました。今日、少子高齢化の進展や世帯構成、ライフスタイルの変化等を背景に地域コミュニティが希薄化する中、こうした多様な縁づくりを実現するためには、従来から地域活動の中心的な担い手である自治会、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会などの皆さんに加えて、地域内に通学する学生や、地域と関連が深い企業、社会福祉施設など、「地域資源」と呼ばれる、現役世代や若者も含めた様々な皆さんに、これまで以上に主体的にかかわっていただくことが大切です。本計画の実現に向けて、「支え手」「受け手」という関係性や世代、分野等を超えて、人と人、人と資源がつながり、地域に「いいひと」の輪を広げていく、そんな「新しい地域の繋がり」を、ともに創っていきましょう。

結びに、計画の策定にあたり、熱心にご議論いただきました地域福祉活動計画等策定委員の皆様をはじめ、アンケート調査等にご協力いただきました地域の皆様、福祉従事者の方々、企業・事業者の方々に、深く感謝を申し上げます。

令和6年3月

社会福祉法人相模原市社会福祉協議会  
会長 笹野章央

# 目次

はじめに	1
<b>第1章 地域福祉活動計画策定の概要</b>	
1. 計画策定の目的	4
2. 計画の位置づけ	
3. 計画の期間	
4. 地域福祉活動計画等策定委員会の設置	5
5. 計画の性格	
6. 計画の背景	6
<b>第2章 地域福祉の現状とこれまでの取組からの課題</b>	
1. 課題の整理	10
❶「困りごと」の多様化	
❷潜在化するニーズ	11
❸地域の担い手不足	12
❹子どもを取り巻く環境の変化	18
<b>第3章 第10次さがみはら地域福祉活動計画がめざすもの</b>	
1. 基本理念とめざす地域の姿	26
❶基本理念	
❷めざす地域像	27
2. 第10次計画の基本的な考え方	28
❶基本目標	
❷重点的な視点	29
3. 基本目標のそれぞれの取組	30
基本目標1…見守り、支えあう あんしんできる縁づくり	
基本目標2…誰もが生きがいを持って活躍できる縁づくり	36
基本目標3…人と人、人と地域がつながる縁づくり	42
<b>第4章 計画を進めるための相模原市社会福祉協議会の取組</b>	
1. 計画を進めるための市社協の取組 ～地域共生社会の実現～	48
2. 計画の進行管理と点検・評価	49
<b>第10次さがみはら地域福祉活動計画策定にあたって</b>	51
<b>策定をふりかえって</b>	52

# 第1章

## 地域福祉活動計画

### 策定の概要



# 1 計画策定の目的

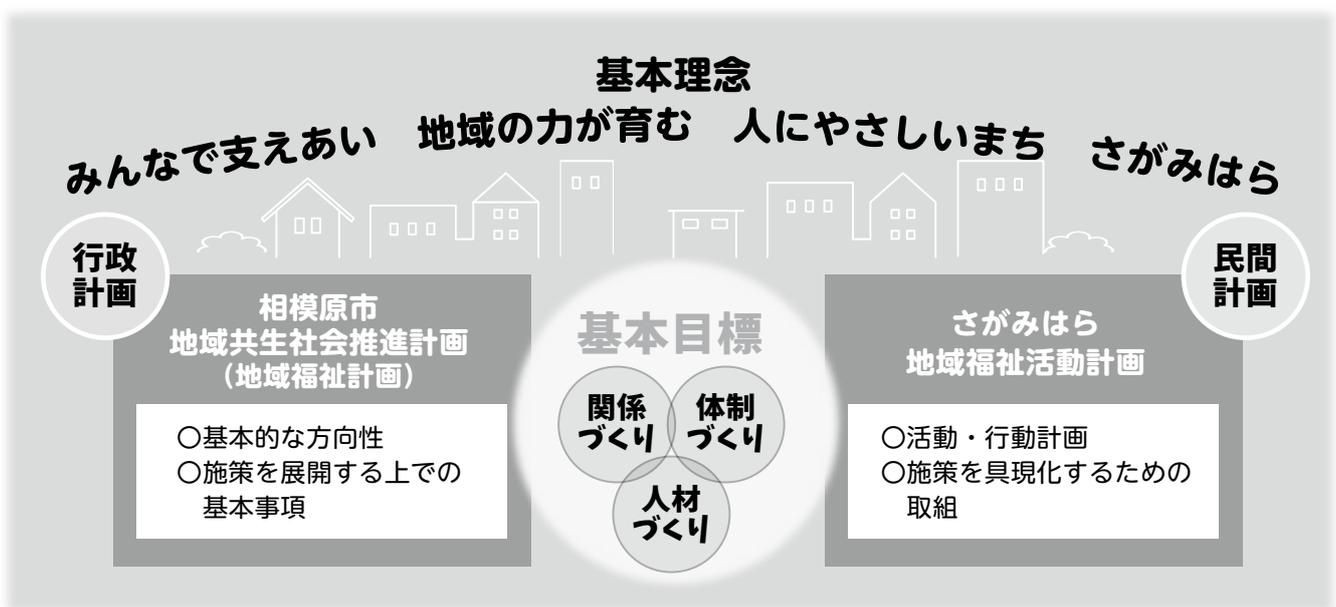
地域福祉活動計画は、**地域みんなが取り組む行動計画**です。

相模原市社会福祉協議会(以下、「市社協」という。)が策定する第10次さがみはら地域福祉活動計画(以下、「第10次計画」という。)は、地域にある様々な福祉課題を自分たちの問題としてとらえて、地域住民を中心として多様な団体、専門相談機関が互いに協力し合い、課題の解決に向けて住民による支えあい活動に取り組み、“誰もが地域でいきいきと暮らせるまちづくり”を進めるための計画として策定するものです。

なお第10次計画は、みんなが取り組む計画として、親しみを感じていただけるように愛称を“さがみはら地域福祉活動計画”としています。

# 2 計画の位置づけ

第10次計画は、相模原市が策定する「相模原市地域共生社会推進計画(第5期相模原市地域福祉計画)(以下、「市計画」という。)」と基本理念、基本目標を同一として、共有、連携を図りながら、相模原市の地域福祉を一体的に推進する計画としていきます。



※市計画は、第5期計画から、地域共生社会をめざし、名称を地域共生社会推進計画としています。

# 3 計画の期間

第10次計画の期間は、令和6年度から令和11年度までの6年間とし、市計画の期間と整合を図るため、期間を合わせています。

## 4 地域福祉活動計画等策定委員会の設置

令和4年11月に地域福祉活動計画等策定委員会を設置し、8名の委員により策定に向けた取組課題の整理、めざす地域像、新たな重点的な取組内容の検討を行いました。

## 5 計画の性格

### 1 地域のみんなが取り組む行動計画

地域福祉活動計画は、地域住民を中心に様々な団体が手を取り合い、地域にある福祉課題を身近な問題として受け止め、一緒に解決していくための取組方策を定めた行動計画です。

第10次計画では、住民一人ひとりをはじめとして、地域、社会福祉施設・企業等それぞれの取組と市社協の取組の方向性を示しています。

「計画の活用について」

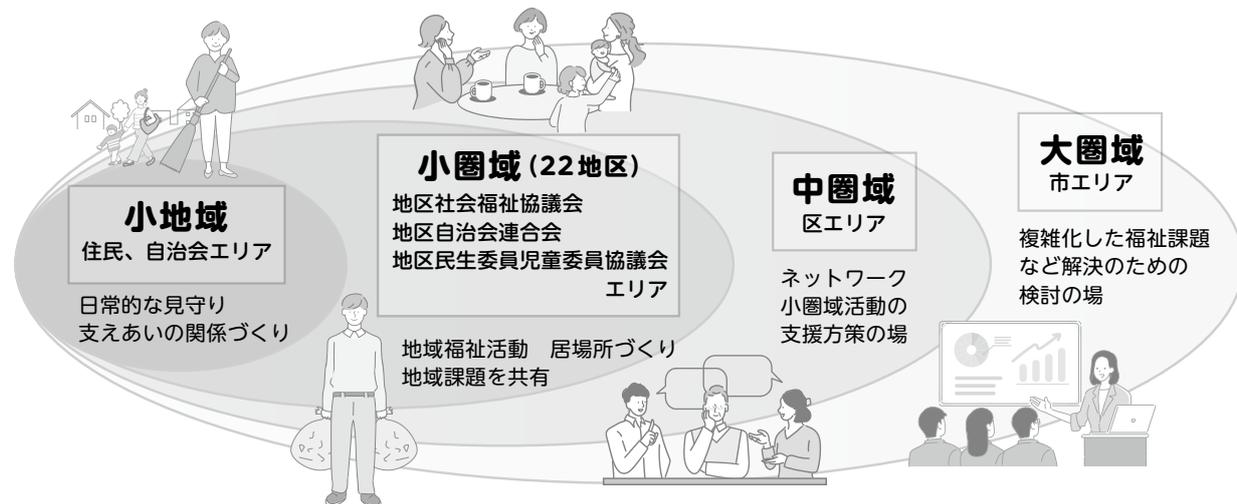
- ◇2章では、地域福祉の現況を分析し課題を整理しました。
- ◇3章では、2章にある課題の解決に向けて目標を定め、その取組の方向性を示しました。地域のみんなが取り組みやすいように「**1**市民一人ひとりができる取組」「**2**地域の取組」「**3**市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組」をそれぞれ参考になるように記載しました。また、活動を進めるヒントとして実際の地域活動の事例を紹介しています。
- ◇4章では、地域の取組をともに推進するために市社協の役割を整理しました。
- ◇なお本計画書は、地域の皆さんの取り組みと第10次計画の目標を確認し、取組の課題や方針を話し合うきっかけづくりなどにご活用ください。  
この計画はみんなで取り組むための「羅針盤」として活用していただき、みんなでもとに取組を進めていきましょう。

### 2 地域の福祉課題に応じた支えあい活動を進める圏域

地域には、それぞれの特性に応じて様々な福祉課題があります。その福祉課題の解決に向けた取組を進めるためには、様々な団体が連携・協働するための基盤となる圏域が重要です。

市内では、22の地区に地区自治会連合会や地区民生委員児童委員協議会、さらに、住民を中心として地域にある様々な団体から構成される「地区社会福祉協議会(以下、「地区社協」という。)」が組織されており、地域福祉推進の中核的な役割を果たしています。

第10次計画では、22地区で地区社協が取組を進めている小圏域を地域福祉推進の中心的な圏域として位置づけ、取組の方向性を示しています。



# 6 計画の背景

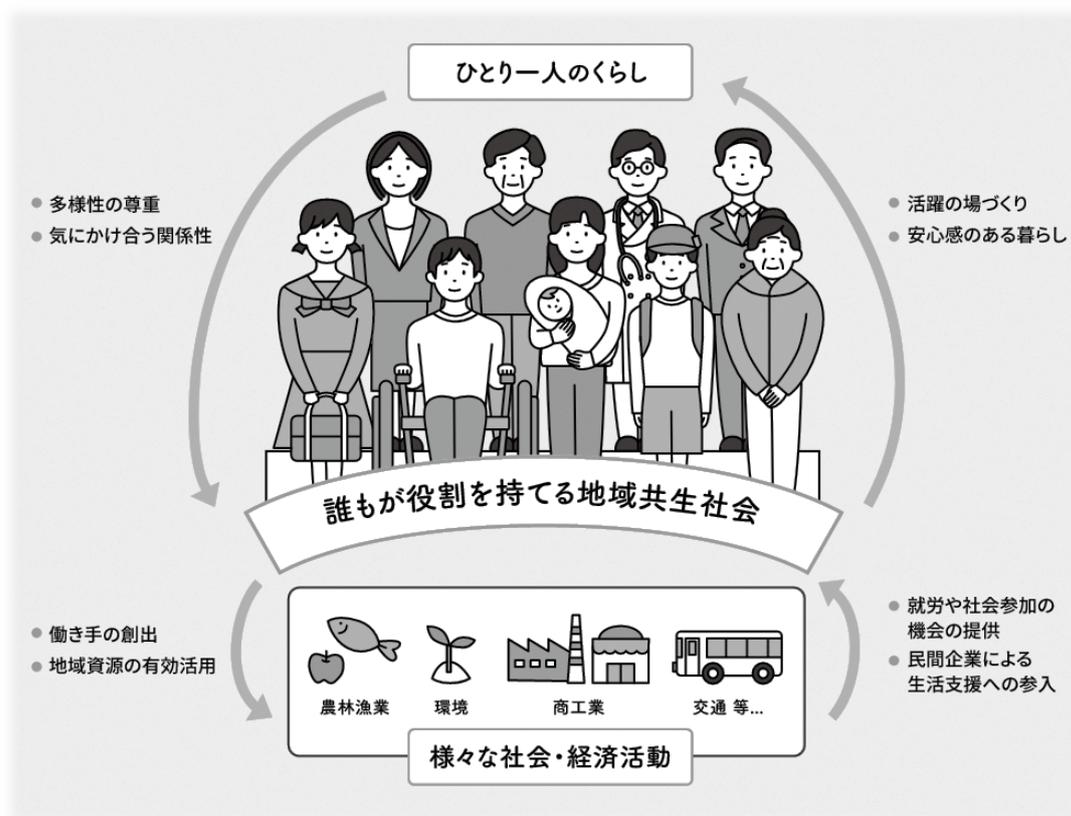
## 1 地域を取り巻く環境

少子高齢化や単身世帯の増加、社会的孤立等を背景に、8050問題<sup>※1</sup>やダブルケア<sup>※2</sup>など様々な分野の問題が絡み合い、さらに、個人や世帯で複数の分野にまたがる問題を抱えるなど、地域にある福祉課題は「複合化」「複雑化」しています。

また、コミュニティ意識の希薄化、地域活動の担い手不足など、地域で支えあう力が弱体化し、「困りごと」や「生きづらさ」を抱えていても、誰にも相談できず、適切な支援に結びつかないというケースが増えています。

## 2 「地域共生社会」の実現

誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、制度・分野の枠や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と地域・社会とつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、支えあいながら暮らしていくことのできる「地域共生社会」の実現が求められています。



資料：厚生労働省資料一部改変

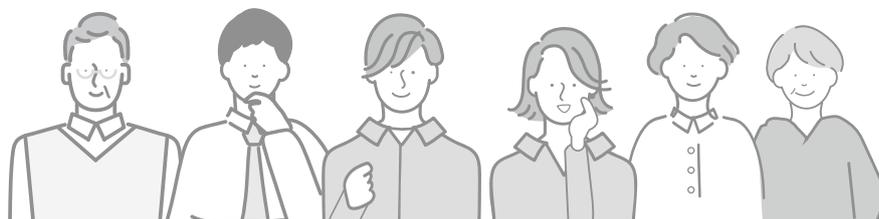
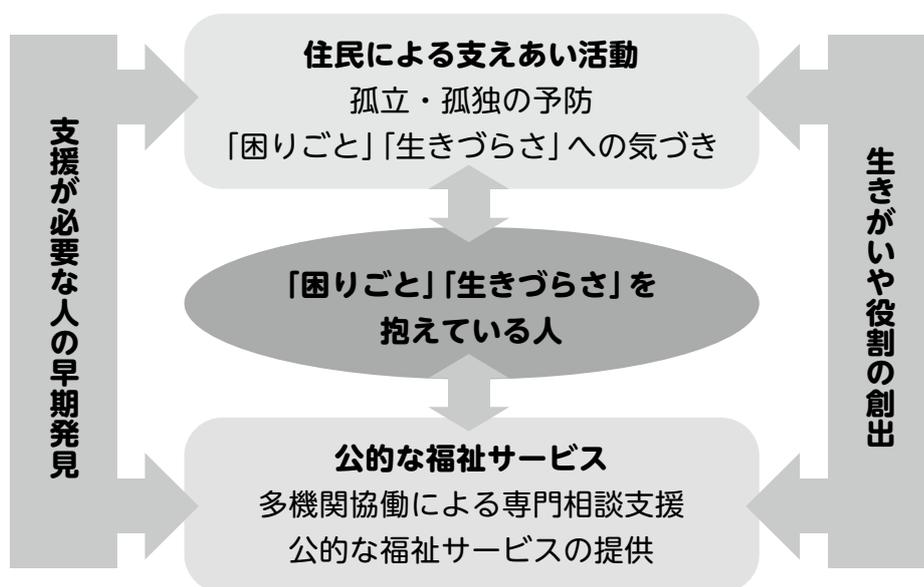
※1 「8050(はちまる・ごうまる)」問題とは、80代の親が50代の子どもの生活を支えるために経済的にも精神的にも強い負担を請け負うという社会問題のことをいいます。

※2 「ダブルケア」とは、育児と介護が同時期に発生する状態のことをいいます。

第10次計画では、「地域共生社会」の実現をめざしていくために、「困りごと」「生きづらさ」を抱えている人の孤立・孤独の予防や支援を必要とする人の早期発見、誰もが参加できる場・機会づくりなどに向け、住民、地域団体、社会福祉施設、企業等のネットワーク化を進めるとともに、人と人、人と地域・社会とのつながりを育むための取組を進めていくことが求められており、公的な福祉サービスと住民による支えあい活動との連携を図ることを重視しました。

- ①誰もが気軽に参加できるつながりの場・機会づくり(孤立・孤独の予防)
- ②つながりの場・機会から「困りごと」「生きづらさ」への気づき(早期発見)
- ③民生委員・児童委員等を通じた公的な福祉サービスへのつなぎ(専門相談支援)
- ④専門相談機関、地域、社会福祉施設、企業等のネットワーク化(多機関協働連携)

### 【連携による効果】



### 3 SDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標) を踏まえた計画の推進

SDGsとは、2015(平成27)年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2030(令和12)年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。17のゴールから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



また、SDGsの17のゴールは、一人ひとりを排除や孤立から守り、社会(地域社会)の一員として取り組み、支えあう考え方です。なお、日本では、豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するために、2020(令和2)年から10年間にわたり、目標達成に向けて積極的に取り組んでいくことが明言されています。

市社協においても、その目標達成を意識し、地域にある「困りごと」への対応や住民による支えあい活動の推進等に取り組むものとします。

#### 《本計画と特に関連の深い目標》

市社協も「さがみはらSDGsパートナー」に登録し、地域福祉を進めています。



# 第2章

地域福祉の現状と

これまでの取組からの課題



# 1

## 課題の整理

### 1 「困りごと」の多様化

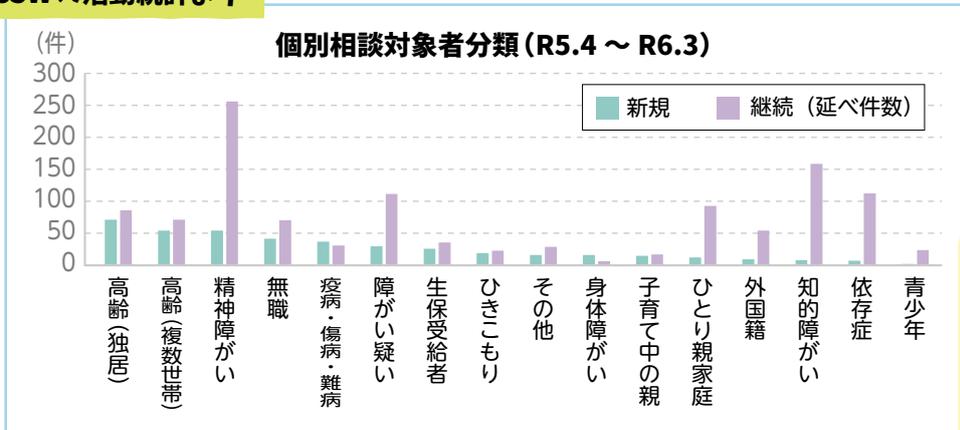
社会的な問題(少子高齢化・雇用や賃金・子育てや教育・医療や介護等)が多岐にわたることで、人々の「困りごと」や「生きづらさ」の要因も複合化・複雑化してきています。

下図は相模原市のコミュニティソーシャルワーカー<sup>\*</sup>(以下、「CSW」という。)に寄せられる相談をまとめたものです。様々な要因が絡み合った複雑な地域生活課題がうかがえます。

※コミュニティソーシャルワーカー(CSW)

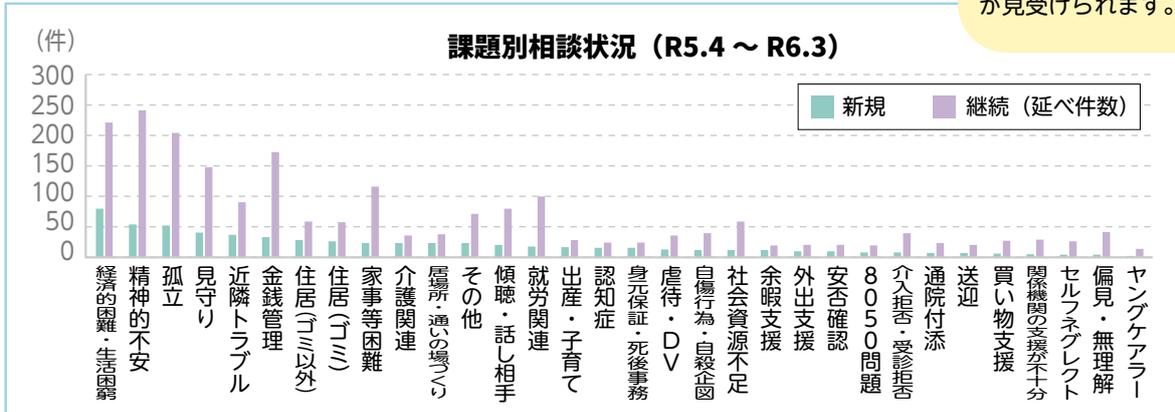
制度やサービスでは対応できない課題や、世帯内に複数の課題を抱える家庭への個別支援をとおし、地域の支えあいの仕組みづくりを行っています。

#### CSWの活動統計より



相談件数(件)	内訳	内訳
	新規	継続
1,582	405	1,177

新規相談は高齢(独居・複数世帯)が多くなっています。また、高齢、障がい、児童などの複数の分野にまたがる課題を抱える世帯があります。継続相談は精神障がいが多い傾向が見受けられます。



新規相談の課題では「経済的困難・生活困窮」「精神的不安」「孤立」「近隣トラブル」と続きますが、それに比べて継続的に関わる相談課題は「精神的不安」「経済困難・生活困窮」「孤立」「金銭管理」「見守り」が非常に多くなっています。

継続相談の多くは、制度やサービスが少ない、また、関わってくれる人が少ないなどの課題があると捉えました。また、「経済困難」「偏見・無理解」「セルフネグレクト」など地域課題が多様化していることがうかがえます。

「困りごと」が複雑化する前に早期に相談につながる大切ですが、「生きづらさ」「困りごと」を抱えていても相談先が分からなかったり、困難な状況でありながら自身で気づかない、ということもあります。地域の中で、近隣住民が気に掛けられるような意識や取組が大切です。

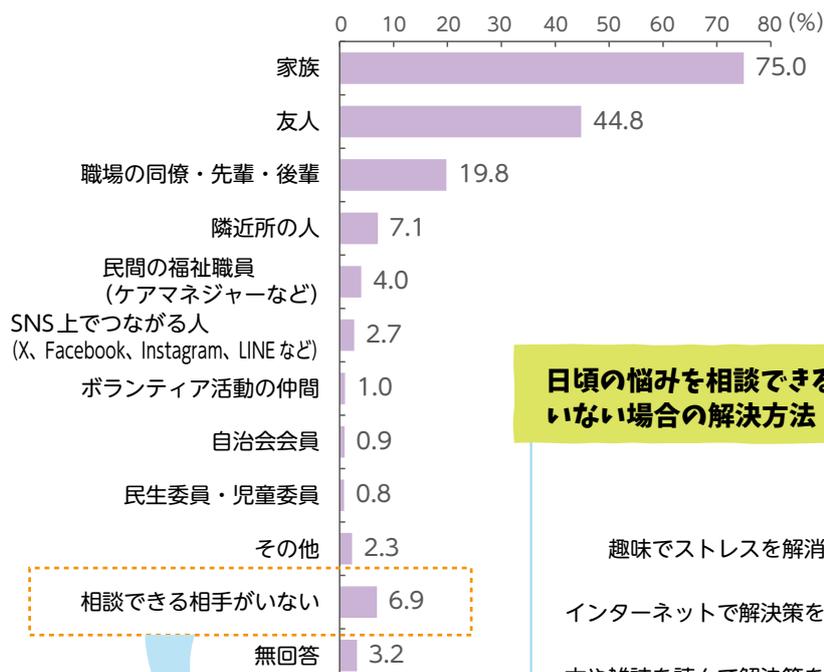
## 2 潜在化するニーズ

社会における人のつながりが希薄化している上に、コロナ禍をきっかけに人と接触する機会がさらに減少したことで「孤独・孤立」の問題が浮き彫りとなりました。

それにより地域の中で課題や不安を抱える人たちを把握することが一層困難となり、それが住民のニーズが潜在化する要因の一つではないかと思われます。

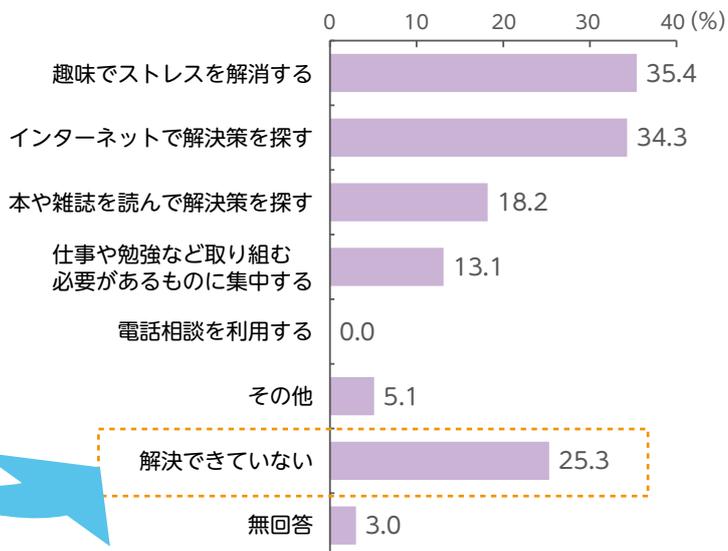
### ◇「人とのつながり・悩みの相談について」(市民アンケート調査)

#### 日頃の悩みの相談先



「地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定にかかるアンケート調査」  
対象：市民 回答数1,443  
(令和5年3月 実施：相模原市)

#### 日頃の悩みを相談できる相手がない場合の解決方法



「日ごろの悩みの相談先について」の設問では、「相談できる相手がない」と回答した割合が6.9%となっています。

「相談できる相手がない」と回答した人への質問(右図)では、「解決できていない」という回答が25.3%となっており、困りごとを抱えていても、相談できず、解決もできていない住民が一定数いることが分かります。

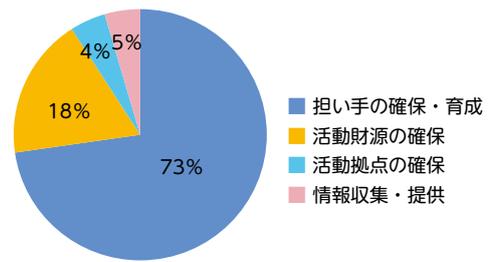
相談しやすい人や声をあげやすい場を様々なところにつくっていくことが大切です。

### 3 地域の担い手不足

自治会未加入世帯の増加や共働き世帯の増加、定年退職後の再就職等により、これまでの地域活動を支えていた担い手が減少していることから、地域で支えあう力が弱まっています。

地域福祉の推進を主に担う地区社協を対象としたアンケート調査では、「担い手の確保・育成」が運営する上での最も大きな課題として捉えられています。

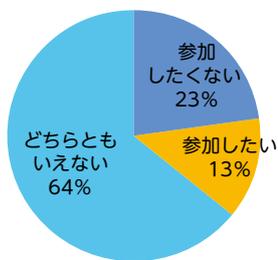
地区社協活動で最も大きな課題は？



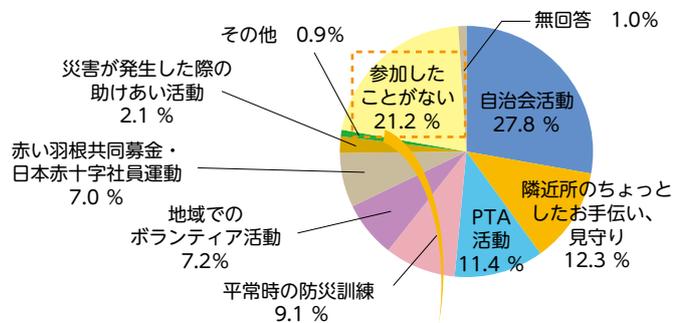
「地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定にかかるアンケート調査」  
 対象：地区社会福祉協議会  
 (令和5年3月 実施：相模原市)

#### ◇「地域での支えあい・助けあい活動の参加」について(市民アンケート調査)

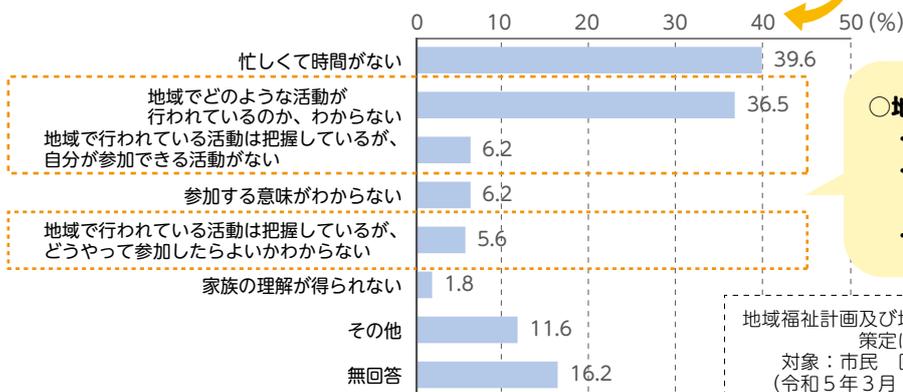
①地域での「支えあい・助けあい」の活動に参加したいと思うか



②参加したことがある地域の「支えあい・助けあい」活動は(複数回答)



③「支えあい・助けあい」活動に参加できない理由(複数回答)



○地域活動への参加の課題

- ・地域活動の周知
- ・誰もが参加しやすい
- ・地域活動の展開
- ・参加方法の仕組み

地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定にかかるアンケート調査  
 対象：市民 回答数：1,443  
 (令和5年3月 実施：相模原市)

市民を対象としたアンケート調査では、「支えあい・助けあい」の活動に参加したいと思うか」という問いに対し、「どちらともいえない」が64%となっています。

また、「参加したことがある地域活動について」の問いでは、「参加したことがない」と回答した人の理由として「地域でどのような活動が行われているのか、わからない」が36.5%、「自分が参加できる活動がない」が6.2%、「どうやって参加したらよいか分からない」5.6%でした。

このように“地域の活動に前向き”でありながらも、活動情報が分からない、できる活動がないという理由で活動に参加できていない回答は、合算すると50%近くあることが分かりました。

地域には潜在的な担い手がいるにも関わらず、効果的な情報伝達や担い手になりうる市民のニーズにあった活動の展開ができていないため、担い手不足になっている可能性が考えられます。

## 期待する新たな担い手として…

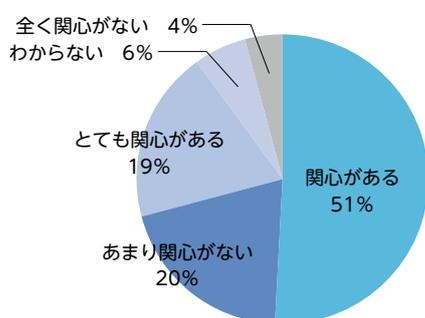
地域に住む住民だけではなく、地域に通学している学生、事務所や施設を構える企業や社会福祉施設等も地域の新たな担い手として活躍が期待されています。

それぞれに、ボランティア活動や社会貢献活動に対するアンケート調査を実施しました。  
(一部抜粋)

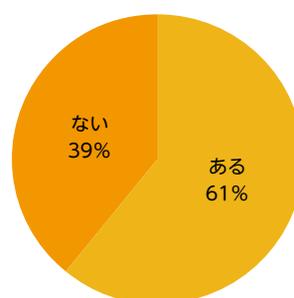
### ①新たな担い手(若者)

若者のボランティア活動に関するアンケート調査(実施:相模原市社協)  
対象年代:市内在住・在学・在勤の中学生～20代 回答数:233名  
※大学生に関しては社会福祉学部・学科専攻の学生が主となっています。

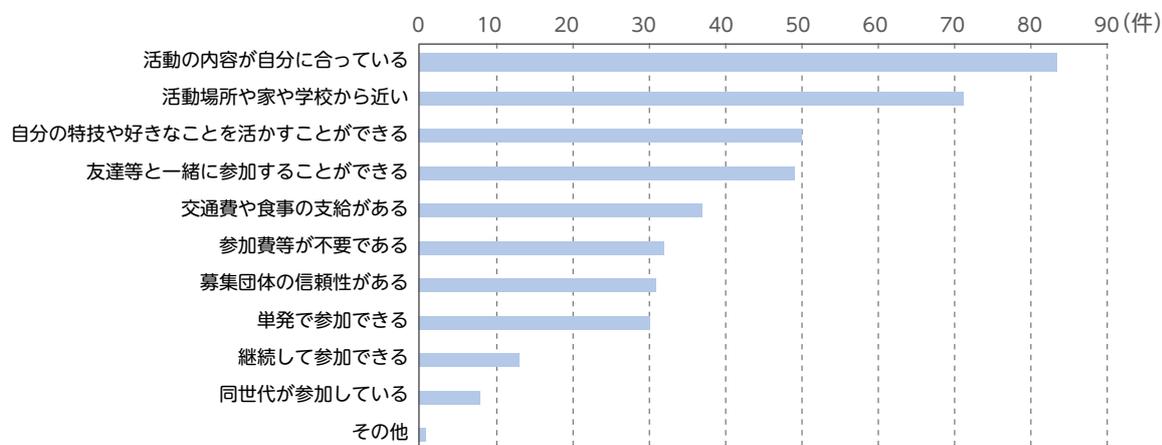
#### ボランティア活動への関心について



#### ボランティア活動への参加



#### 今後、ボランティア活動に参加する際、何を重視するか(複数回答)



「ボランティアへの関心について」の問いに対し、「とても関心がある」「関心がある」と回答した割合が70%となっています。また「ボランティア活動への参加について」は、61%が「ある」と回答しました。福祉関連校からの回答が多かったことも一因と考えられますが、ボランティア活動に関心のある若者が一定数いることが分かりました。

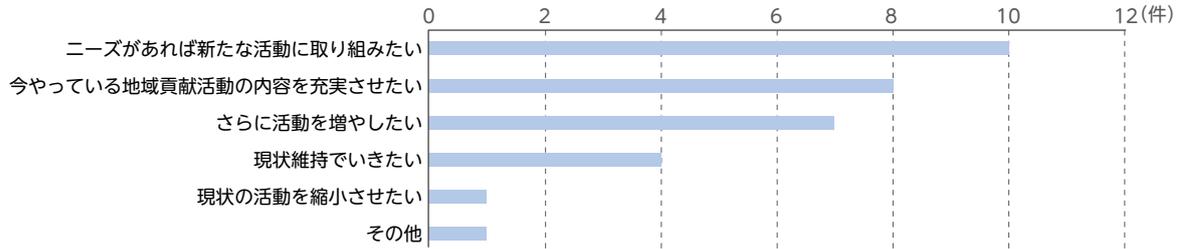
また、「今後、ボランティア活動に参加する際、何を重視しますか?」という問いに対しては「活動の内容が自分に合っている」「活動場所が家や学校から近い」という回答に次いで、「自分の特技や好きなことを活かすことができる」「友達等と一緒に参加することができる」という回答が多くなっています。

従来の「福祉的ニーズに沿ったボランティア活動」だけではなく、受け手側のニーズと支え手側のニーズをマッチングさせながらボランティア活動を生み出すことが、新たな担い手との出会いのヒントになるかもしれません。

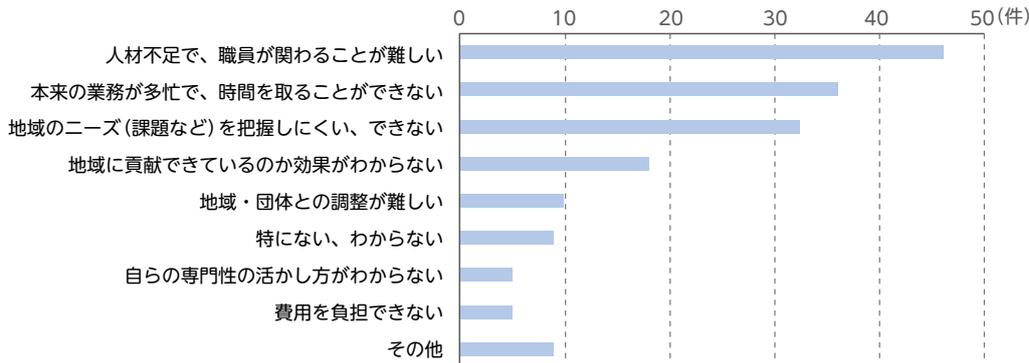
## ②新たな担い手(社会福祉施設等)

法人・社会福祉施設等の地域貢献活動促進に向けたアンケート調査(実施:市社協)  
対象団体:市内高齢者施設・障がい者施設・保育園・こども園(令和5年5月~6月)  
回答数:93

### 今後の地域貢献活動についてどのように考えるか



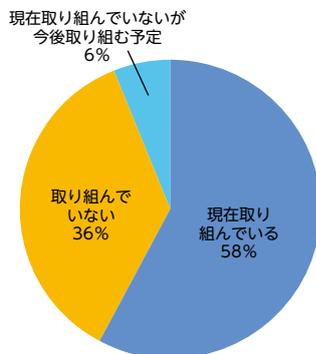
### 地域貢献活動を行う上での課題は何か(複数回答)



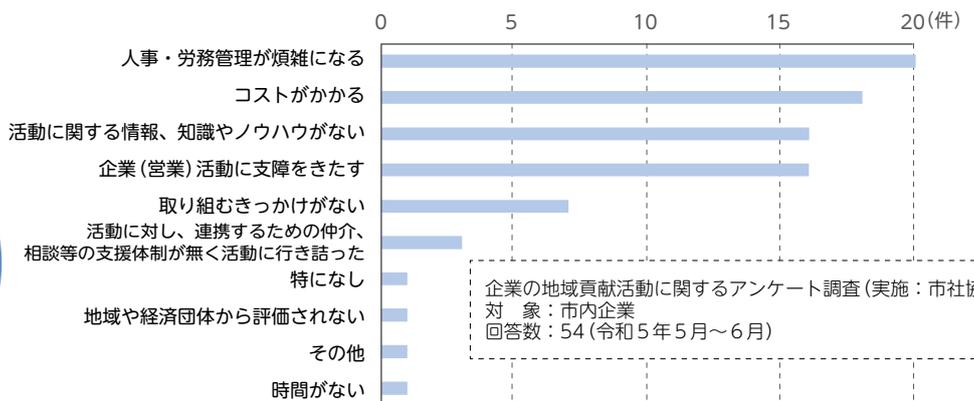
「今後の地域貢献活動についてどのように考えるか」という問いに対し、「ニーズがあれば新たな活動に取り組みたい」と回答した割合が多くありました。一方、「地域貢献活動を行う上での課題について」の問いでは、「人材不足で、職員が関わるのが難しい」という回答が多く、「活動に前向きであるが業務に支障が出ない範囲で実施したい」というジレンマを抱えていることが分かりました。

## ③新たな担い手(企業)

### 地域貢献活動に取り組んでいるか



### 地域貢献活動を進める上での課題は何か(複数回答)



企業の地域貢献活動に関するアンケート調査(実施:市社協)  
対象:市内企業  
回答数:54(令和5年5月~6月)

「地域貢献活動について」の問いに対し、58%がすでに取り組んでいると回答しました。

一方「地域貢献活動を進めるうえでの課題」についての問いには、「人事・労務管理が煩雑になる」「コストがかかる」といった業務に関する課題に次いで、「活動に関する情報、知識やノウハウがない」という回答が多くありました。福祉と関連の薄い企業では、活動のイメージが持ちづらく、活動に踏み出せないことが課題の一つであることが分かりました。

## みんなの声 ~インタビューから~

「生きづらさ」「困りごと」を抱えた経験のある方からの声、つながることへの想いなどのお話をうかがいました。

「生きづらさ」「困りごと」を抱える方が声を出しにくい背景には、相談できる相手がいない、わかってもらえるか不安、困っていることや悩みの整理ができないし上手く伝えられないといったことがあります。

「生きづらさ」に気づいてもらうことや声を聴いてもらえることは安心につながります。心の支えとなるような安心できることとはどんなことなのでしょう。



- 今の事業所や団体につながったきっかけや居場所はどんなところ
- これまでに支えになった人・これからのこと・伝えたいこと…など

### ①第3けやき(特定非営利活動法人 けやきの会地域活動支援センター)のメンバー

#### どんなところ

- ◇メンバーやスタッフが優しく、居心地がいいです。楽しいです。
- ◇元気をもらえます。

#### 伝えたいこと

- ◇具合が悪かった時に車内の優先席に座ったら、身体に障がいのある方が身体障害者手帳を出して席を譲ってほしいと言ってきました。こちらも精神障害者保健福祉手帳を出して理解はしてもらったけど…
- ◇精神障がい者は外見だけでは分からない。
- ◇建物のバリアフリーは進んでいるけれど、心のバリアフリーはまだ進んでいないかもしれないね。



- ◇偏見をうまないためにも、真実を見る目が重要です。難しいことだけれど、僕たちもまだまだ修行が必要な。

### ②若年性認知症家族の会「じゅりの会」の会員

#### どんなところ

- ◇まだまだ理解されていない若年性認知症\*の症状や介護など、同じ悩みを持つ人たちが集まるので、安心して悩みを打ち明けられることができます。場ですし、体験談や情報を教えてもらうことができ、助かります。

#### 伝えたいこと

- ◇働き盛りの世代で発症するため、仕事ができなくなると経済的に困ることもあり、家族への負担が重くなります。また、高齢発症の認知症とは異なり、理解が進んでいないため、適切な支援に結びつかないことがあります。
- ◇傷病手当や失業保険等の情報を知らなくて経済的に困ったことがありました。制度の情報や勤め先の理解など、同じように困っている人に情報提供をしてあげたいです。
- ◇発症した本人の、働きたい気持ちや地域の交流



の場に行きたい気持ちを実現させてあげたかったが、病気が理解されず(見た目に若いのでできると思われること、一般的には理解されにくい行動をとってしまうこと)、つながることができずに家に居ることが多くなりました。

\*65歳未満で認知症を発症した場合に若年性認知症といいます。

### ③NPO 法人文化学習協同ネットワークコロレ\*のメンバー 10代男性ひきこもり経験者

#### どなたと

- ◇不登校を経験し、児童相談所を経てつながりました。最初は自分から仲間に入ることはできませんでした。しかし、スタッフやコロレの先輩、仲間のみんなが親しみやすく、優しくしてもらい、居心地が良かったです。自分を受け入れてくれた職員をととても尊敬しています。
- ◇ひきこもっていた時は洋服に気を留めることがありませんでしたが、ここへ来るようになってから人に見られていることを意識し、最近はおしゃれに気を使うようになりました。

#### 自分と同じような立場の人に伝えといたら

- ◇まずは、居場所に実際に参加してみて、続けることが大事だということ、そして、自分のように社会から離れていたとしても、まわりの力で変わることができるということを伝えたいです。

#### 職員より

- ◇コロレは、自分のことを語る(表現する)ことで、つらかった経験を自分の中で消化していくことができる場になっています。
- ◇アルバイトをして自立していったコロレの先輩たちに憧れを持つことができている、先輩たちがロールモデルになっています。



※子どもたちの学習支援や不登校児童・生徒の居場所づくり、若者の社会参加や就労支援を行っている

### ④みのり塾(無料学習支援) 20代女性OB

#### きっかけは

- ◇中学3年の時に受験勉強は一人でやるのに不安があり、地域の情報紙に掲載されていた「みのり塾」を母親が見つかり、参加するようになりました。スタッフの先生方には、とても親身に相談にのってもらいました。塾を卒業した後も、声をかけてくれたり、自分の習い事の発表会に来てもらったりと嬉しかったです。

#### スタッフより

- ◇子どもたちは自分だけを見てもらえる時間があるのが、嬉しいんです。
- ◇ここでは、親とは違う大人が受け止めてくれる(優しく気にかけてくれる)場所になっています。

- ◇学校の友達や先生には言えないことを話してくれることがあります。(家で家族を介護をしてきた様子等…)。解決してほしいわけではなく、ただ聞いてもらいたいです。



### ⑤自立支援相談窓口\*の利用者 20代男性ひきこもり経験者

#### きっかけは

- ◇小学3年生から15歳まで不登校でした。このままではいけない。自分が変わらないと何も変わらないと思いました。人と関わることや仕事を覚えることなど、自分でも努力しました。最初の頃は思春期で反抗していた時期もありましたが、ここのスタッフの方たちが丁寧に関わり、親身になってくれたので今では感謝しています。

#### スタッフより

- ◇困っている人、悩んでいる人がいたら、じっくり話を聞いてあげることをしていきたいです。



※失業などで生活に困っている人、生活が不安定な人の相談を受け、生活状況・課題に合った個別相談を行っている。

## ⑥ 視覚障がい当事者・福祉教育講師 20代女性

### 福祉教育講師のきっかけ

◇大学を卒業してすぐの頃に、全盲となりました。途中でハンディを抱えたことにより苦しい時期もありましたが、視覚に障がいがある中でもさまざまな可能性があることに気が付き、前を向くことができました。そこで自分にできることを探そうと情報収集のためにボランティアセンターを訪れたところ、「福祉教育の講師をしてみないか」とスカウトを受けました。今では、その活動が生きがいとなっています。

### 福祉教育の講師として子どもに教えていること

◇子どもたちには、視覚に障がいを抱えてからの自分の体験を話すことを通して、人間の持つ可能性を知ってもらいたいという思いで話をしています。また、いろいろな違いのある一人ひとりが集まった社会で共に生きているということを体感するきっかけとして、そして、その中で、一人ひとりが互いを知ろうと努めることの大切さなどを伝えています。

### みんなにとっての居場所とは

◇視覚障がい当事者として、視覚に障がいがある方と同じ目線に立って不安や悩みなどを聴き、前に進むサポートをするといったピアカウンセ

ラーとしての活動もしています。また、視覚に障がいのある方々が集い、情報交換をしたり交流を楽しむ場の運営もしています。私が考えるみんなにとっての居場所とは、自己が脅かされることなく、安心していられる場です。「自分が受け入れられている」「そこに自分の役割がある」「自分が必要とされている」といった感覚を持って、その場所が心のよりどころになっていると感じられる場所が、その人の居場所となると考えます。そしてそのような安心・安全な場所は、人が前に進む力を蓄える場となります。

集うきっかけは何にせよ、このような場が身近な地域の中に一つでもあるだけでその人の救いとなるのだらうと思いつながら、ピアカウンセラーとしての役目を務めています。



## 皆さんの声をまとめました…

### 今の場につながったきっかけとして

自ら「今の辛さから逃れたい」「同じ悩みを持つ方と話したい」など目的をもってつながった方もいれば、辛さを抱えていても自分から発信できなかった方もいます。いずれも、導いてくれる人に出会えることはとても大きいことです。

### 皆さんがこの場に居続けられていることについて

この場に居続けられる理由は…「居心地がいい」「優しい人たちがいる」「同じ悩みをもつ人たちだからわかってもらえる」「親しみやすい雰囲気がある」「声をかけてもらえる」「やりがいを感じる」ことなど、悩みを分かち合えることや周囲の優しさを感じられたことが、大きな要素のようです。

### 人生における支えになった人たちとは

「家族」「相談した職員」「恩師」「仲間」等、苦しい時に親身に自分を受け入れ、相談にのってくれた方たちでした。気持ちがかわれるきっかけにもなっています。また、自分の好きなことや夢中になれるものがあることも支えになります。

### 自分らしく居られるために

「楽しい気持ち」「やりがいがある」「役割がある」「めざすものがある」「仲間がいる」このような気持ちをもてることで、安心して自分を出せ、前向きな自分でいられることにつながります。

### 理解してほしいこと

- 障がいや病気、家庭環境などによって「生きづらさ」があることや「偏見」があることを理解されていないこと
- 今ある制度やサービスが十分ではなく、「困ってしまうこと」があること
- 相談する場や制度・サービスなどの情報を十分に得られていないこと
- 「当事者・経験者」として、地域の貢献者になれること。それが強みです。

### どういう地域であってほしいか

「どんな人とも交流ができること」「選択肢がたくさんあること」「自分の弱さを出しやすい関係でいられる地域」「自分のありのままを認めてくれる人がいる」「不安が取り除かれた環境」



## 4 子どもを取り巻く環境の変化

近年では、少子化の進行や共働き家庭の増加など、子どもとその家族を取り巻く環境が著しく変化している中、育児、不登校やひきこもり、働くことができない若者などの問題も深刻となり、家族だけでは支えきれない問題となっています。

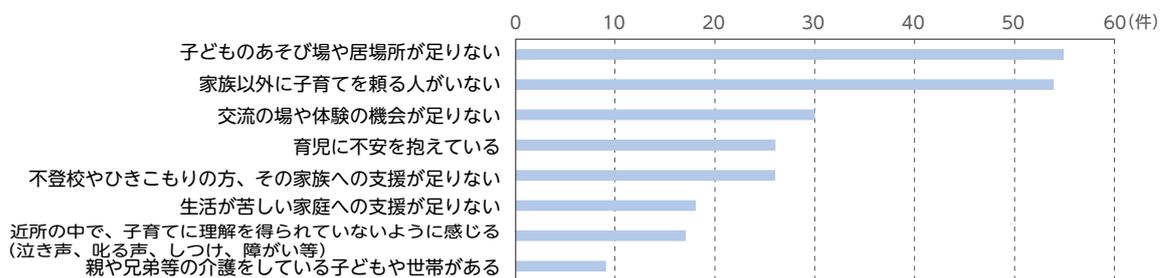
また、家庭や学校以外の人とつながる機会や子どもの人間形成を促すような体験の機会が少なくなりました。

将来を担う子どもたちが健やかに育つ環境を地域でどう支えていくのかが課題となっています。

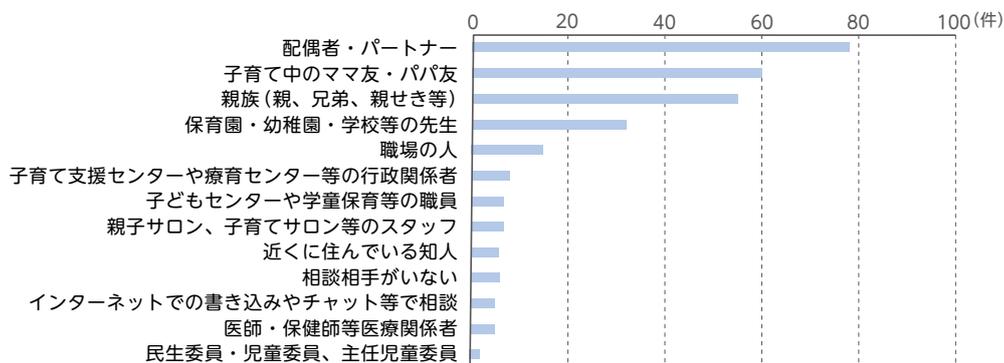
子育てに関するアンケート調査(実施:市社協)  
対象:街頭イベント、子ども食堂・無料学習塾等  
市内子育て中の親・家族 回答数:98  
(令和5年11月~6年1月)

### ①子育て中の親や家族の困りごとや不安なことについて

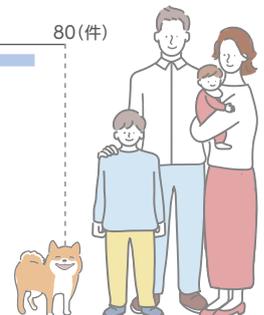
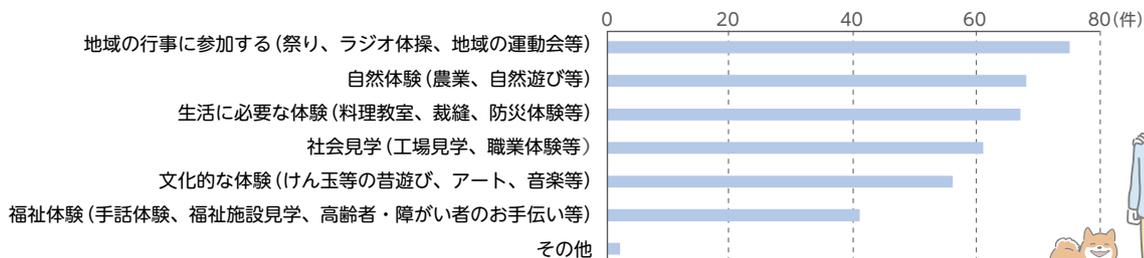
#### 自分または周りの人が感じる「子育ての困りごと」は何が(複数回答)



#### 子育ての悩みや不安の相談先(複数回答)



#### 地域の中で子どもにしてほしい体験(複数回答)



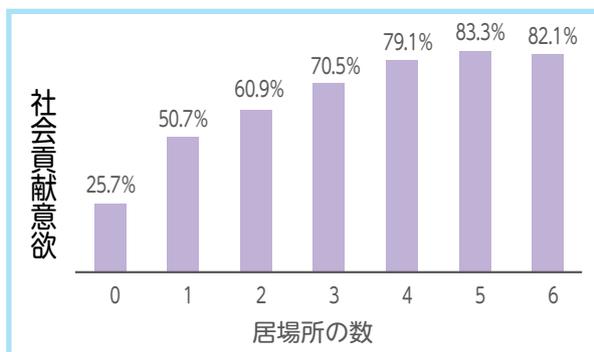
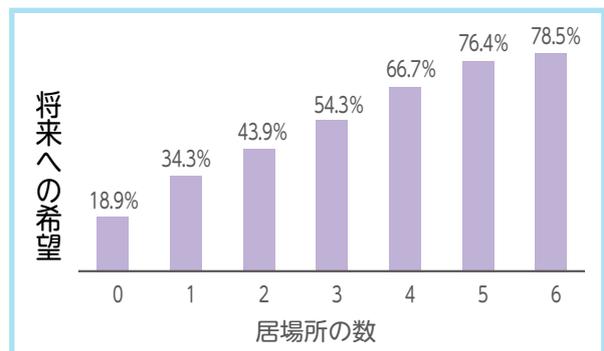
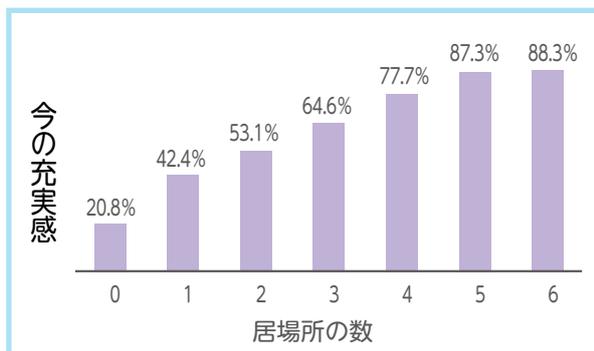
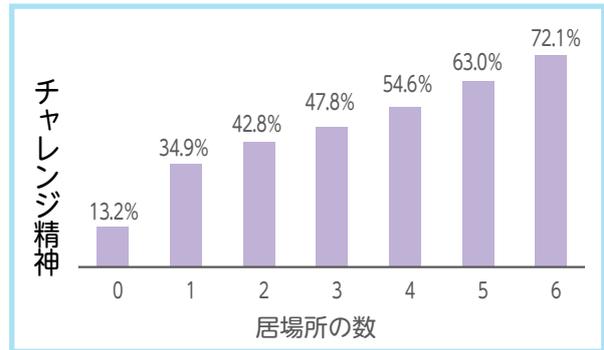
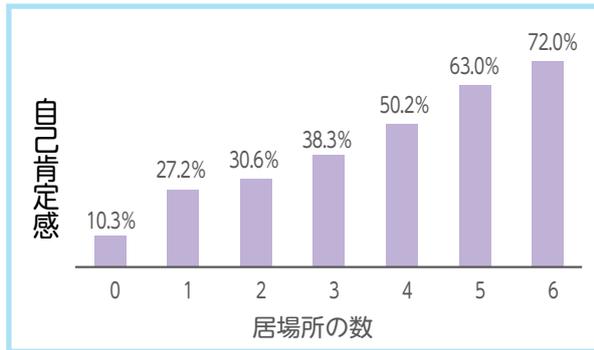
「子育ての困りごと」では、子どもの遊び場や居場所、交流できる体験の機会が不足している、という回答が多数ありました。

「子育ての相談相手」は「パートナー」「ママ友・パパ友」「親族」の順番で多く、次には保育園・幼稚園・学校などの日々子どもを良く知る先生が挙げられました。

「地域の中で子どもにしてほしい体験」で最も多かったのは地域の行事への参加が多く、地域の中で交流の場や生活に必要な体験、自然体験を求めていることが分かりました。

## ②居場所の数と自己認識の関係について

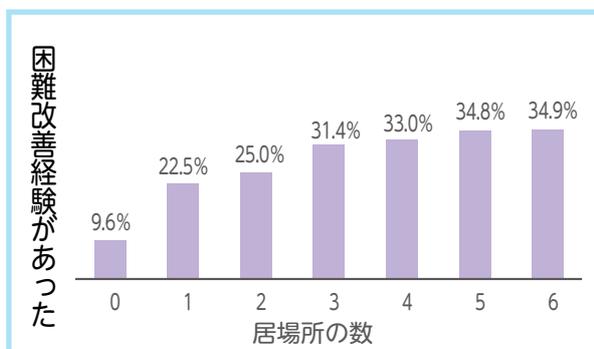
居場所の数が多い子どもや若者ほど、自分を大切に思い、将来へも前向き



居場所の数(自室、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間)の多さと自己認識の前向きさは、概ね関係しています。

居場所の数が多い子どもや若者ほど、自分を大切に思い、将来へも前向きだということがわかります。

居場所の数が少ないほど、困難な状態が改善した経験が少ない



居場所の数が少ない人ほど、困難な状態が改善した経験が少なく、支援希望や支援機関の認知度等も低い傾向があります。

(出典：子供・若者白書(令和4年版))



### ③子ども・若者の成長に関わる体験活動の影響

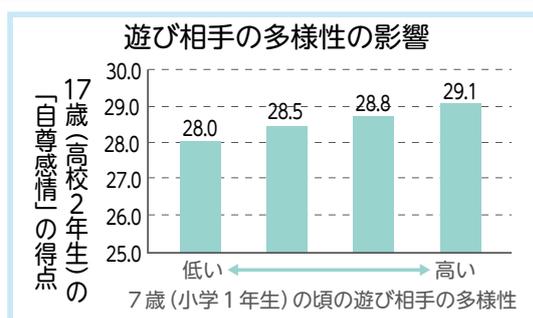
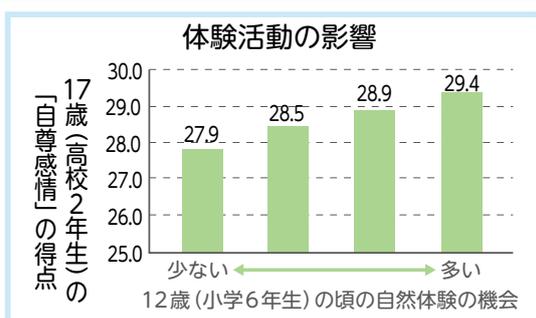
「21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)」で行われた、「体験活動などがその後の状況に及ぼす影響」に関する調査報告を一部抜粋しました。

小学生の頃に体験活動(自然体験、社会体験、文化的体験)や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情(自分に対して肯定的、自分に満足しているなど)や外向性(自分のことを活発だと思ふ)、精神的な回復力(新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向きなど)といった項目の得点が高くなる傾向が見られました。

また、小学生の頃に異年齢(年上・年下)の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだ経験のある高校生も同様の傾向が見られました。

このことから、小学生の頃に行った体験活動などの経験は、長期間経過しても、その後の成長に良い影響を与えていることが分かりました。また、経験した内容(体験活動や読書、遊び、お手伝い)によって影響が見られる意識や時期が異なることから、子どもの健やかな成長を確かなものにしていくためには、1つの経験だけでなく、多様な経験が必要であるということも見えてきました。

#### 小学生の頃に行った体験活動などの経験がその後の成長に良い影響がある(高校生時で調査した結果)



自然体験(キャンプ、登山、川遊び、ウインタースポーツなど)

社会体験(農業体験、職業体験、ボランティア)

文化的体験(動植物園・博物館・美術館見学、音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦など)

- ・自然体験 → 自尊感情や外向性
- ・社会体験 → 小・中・高校生の時期の向学校的な意識(勉強・授業が楽しい)
- ・文化的体験 → 全ての意識に良い影響

- ・異年齢の子どもや家族以外の大人とよく遊ぶ機会が多いと、自尊感情や外向性などに良い影響

参考) 令和2年度 文部科学省委託調査:「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」  
青少年の体験活動の推進に関する調査研究 報告書 一部改変

「子供・若者白書」では、社会全体ですべての子ども・若者が成長・活躍するために、その土台となる居場所が確保されるように取り組むことの大切さを指摘しています。

②では、図のように居場所の数が多い子どもや若者ほど、自分を大切に思い、将来へも前向きでいられるようです。居場所や多様な体験の機会があることは、子どもにとって良い影響が得られていることが分かります。

③では、様々な体験や遊び相手と触れ合う機会が多くあることは、自尊感情の成長への影響が高いことがわかります。

おかれている環境(家族構成や収入、住環境、親のしつけ等)に左右されることなく、全ての子どもたちが居場所や体験の機会を得られるように、子どもや子育て家庭を地域ぐるみで応援していくことが大切です。

## コラム

### 「子どもの居場所」実施団体から見た子どもや家庭の様子

(子ども健やか育成事業助成団体のヒアリングより 令和5年10月16日～11月1日 33団体)

子ども食堂や無料学習支援、学校の長期休み中の子どもの居場所などの活動を行っているボランティア団体等に、活動を通して感じる子どもや家庭の様子、地域の課題などをうかがいました。



#### 居場所

◇夏休みを一人で過ごさなければならない子どもの居場所として、ひとり親家庭から「助かる」との声。学校で習わない学習や体験に取り組み、また地域の人や卒業生にも協力してもらいながら地域の交流の場になっている。

#### 子ども食堂

- ◇障がいのある子を含む家族に、スタッフがよりそいゆっくり食べられるような時間を設けている。
- ◇経済的に困窮している家庭もあり、お弁当やイベントの駄菓子など少額でも支払いをためらう方もいる。外からでは経済状況は分からない。気にかけることが大事。
- ◇ひきこもりの子どものことで悩みを抱える母親が、親子で子ども食堂に通うようになり母親の表情が明るくなってきた。母親の居場所にもなっている。

#### 無料学習支援

- ◇一人親家庭のため、親に代わって兄弟の世話をしている勉強する時間が持てない子どももいる。
- ◇ヤングケアラーの子どもにとっては、先生との一对一の時間が自分の時間。しかし、兄弟の世話をするため出て来られない。兄弟も一緒に連れて来られるようにしてあげれば参加しやすいかもしれない。
- ◇ここに来ている子どもたちを見ていると、体験格差を感じる。体験や人と会う機会や知識を得る場を設けたい。
- ◇発達障がいと思われる子どもの支援や相談する場を知らない保護者がいる。
- ◇不登校の子の保護者も仕事をしながらの不登校の子の居場所づくりが課題。
- ◇外国にルーツのある子どもたちの日本語学習支援や居場所が不足している。
- ◇受験に必要な日本語の習得は難しく、課題を感じる。

## コラム

### 中学生が主体！光が丘こどもまちづくり会議

地区社協の青少年委員会が中心となり始まった「こどもまちづくり会議」は、まちづくりの課題を地域ごとに協議している「まちづくり会議」の中学生版です。大人だけが地域のことを検討するのではなく、子どもたちにも主体的に地域について考える機会をつくることで、地域の一員であることを意識づけ、自由な発想で地域を盛り上げ、未来の地域を支える人材を育てています。

中学生のメンバーに、地域活動プログラムの一環である「こどもまちづくり会議」への参加動機や居場所について意見をうかがいました。

#### 地域活動プログラム(こどもまちづくり会議)に参加しようと思ったきっかけは？

- ◇少しでも地域の活動に協力してみたいと思ったから。活動に興味を持ったから。
- ◇少しでも地域の方のサポート・協力ができないかと考え、自分でもできると思ったのが地域活動プログラムだった。
- ◇地域活動に参加できる機会があまりなかったから、ぜひやってみようと思ったから。楽しそうだから。
- ◇地域活動に少しでも貢献し、みんなを笑顔にしたいと思ったから。昔にもお手伝いをしたことがあるのですが、その時とても楽しかったから。
- ◇地域の方々と関わりたいと感じたから。

#### 中学生が考える居場所とは？

- ◇小中高校生が自由に交流できる場所
- ◇地域の方と関われる場所  
一緒にスポーツをしたり遊んだりして楽しめる無料施設がほしい。
- ◇地域の魅力を知れる場所



#### 活動

- ・年に3～4回開催。日曜日午後4時45分から6時30分
  - ・2か所の中学校の生徒が参加。中学生の視点で住みたいまちづくりを考える。
- 【これまでの取組】自転車免許発行・こどもサミット開催(これまで31回開催)



# 第3章

## 第10次さがみはら 地域福祉活動計画が めざすもの



課題



1. 「困りごと」の多様化

様々な理由で「生きづらさ」や「困りごと」を抱え、社会的な孤立が深刻になってきた

2. 潜在化するニーズ

地域の中でつながりの機会が減り、「困りごと」を抱える人の声を聴くことが少なくなった

3. 地域の担い手が不足

地域活動を担ってきた人や組織・団体等が減少し地域で支えあう力が弱まっている

4. 子どもを取り巻く環境の変化

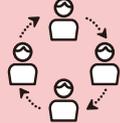
家庭や学校以外の人とつながる機会や、こどもの人間形成を促すような体験の機会が少なくなった

めざす  
地域像

一人ひとりが活躍できる多様な縁づくり



# の力が育む 人にやさしいまち さがみはら

基本目標	取組の方向性		重点的な視点	
<p><b>基本目標 1</b> </p> <p>見守り、支えあう あんしんできる縁づくり</p> <p>【関係づくり】</p>	1	居心地のいい場を増やす P30	 <p>子どもの頃から地域との縁をつくる</p>	
	2	困りごとを発見・共有する P32		
	3	地域や福祉の 情報が行き交う P34		
<p><b>基本目標 2</b> </p> <p>誰もが生きがいを持って 活躍できる縁づくり</p> <p>【人材づくり】</p>	1	地域への関心を高める P36		
	2	地域で活躍する 人を増やす P38		
	3	地域の取組を応援する P40		
<p><b>基本目標 3</b> </p> <p>人と人、人と地域が つながる縁づくり</p> <p>【体制づくり】</p>	1	コーディネート力を高める P42		
	2	地域社会資源を活用する P44		

【 】は「第5期相模原市地域共生社会推進計画」の基本目標と連動しています。

# 1 基本理念とめざす地域の姿

## 1 基本理念

### ～みんなで支えあい 地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら～

地域福祉をすすめるために、地域で暮らす皆さんが「支え手」「受け手」に分かれるのではなく、地域づくりに主体的に参加し、「地域の力」を高めることが必要です。

地域の担い手は、住民の皆さん一人ひとりであり、同時に地域福祉の受け手でもあります。

地域福祉の中心は「人」です。

みんなが一人のために、一人がみんなのために行動し支えあうことが「地域の力」となり、私たちが暮らす「人にやさしいまち さがみはら」を育みます。

福祉は特別なものではなく、住民皆さんのしあわせのためにあるものです。

自ら進んで参加・連携し、皆さんがしあわせに暮らす「さがみはら」を支えていくことをめざします。



## 2 めざす地域像

【スローガン】

### 一人ひとりが活躍できる多様な縁づくり

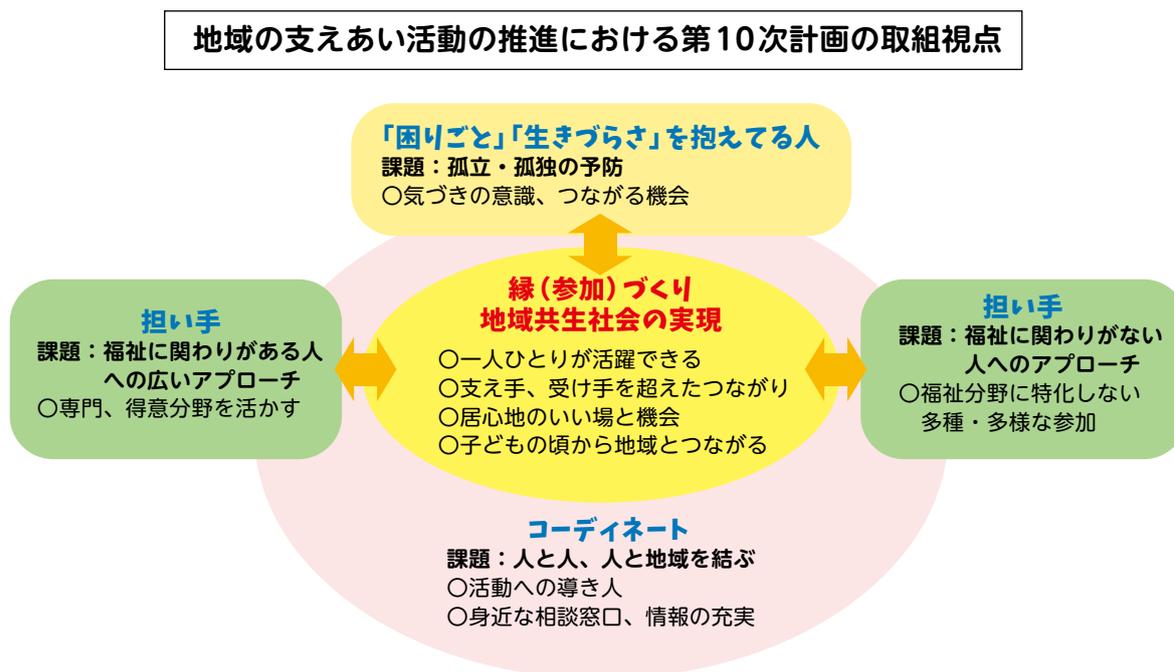
近年、社会的孤立や孤独、地域の人間関係の希薄化などがますます深刻な問題となっており、薄れていく地域のつながり・縁を回復させていくことが大切です。

普段からのつながりがあると、心の支えや安心感を得ることができ、いざというときに助けあうことができます。

第10次計画では、人や地域が多様なかたちでつながり、居心地のいい場・縁をたくさんつくることで、一人ひとりが生き生きと活躍できる地域をめざしていくことが重要であることから、「一人ひとりが活躍できる多様な縁づくり」というスローガンを掲げました。

また、このスローガンをめざす上で、子どもの健全な成長にも目を向ける必要があり、将来を担う子どもの育ちを地域全体で支えることも「地域共生社会」の実現につながることから、第10次計画の基本目標の達成に向け、子どもと地域をつなぐ取組を重点的な視点としました。

以下は策定委員会での検討内容を示したものとなります。



#### 【地域の支えあい活動の推進の取組視点】

1. 「困りごと」「生きづらさ」を抱えている人の孤立や孤独を減らすために  
地域とつながる多様な場・機会づくり
2. 減少する地域活動の担い手確保をめざすために  
活動者への継続アプローチと新規人材の発掘
3. 継続した地域づくりを進めていくために  
身近な地域のニーズと支援活動を結び付けるコーディネーター機能の充実

## 【2】第10次計画の基本的な考え方

### 1 基本目標

基本理念の実現に向けて、基本目標を定めました。

※【 】は、市計画の基本目標と連動をしています。

#### 基本目標 1

【関係づくり】

見守り、支えあう あんしんできる縁づくり



CSWや民生委員・児童委員に寄せられる相談では、高齢者、障がい者からの相談が多く、内容はサービスや介護、経済的困窮、心の不安等の相談が目立ちます。また、子育てや不登校、ひきこもり等に関しては継続的な見守りや支援を必要とするケースが増加しています。

このような状況下では、公的サービスや制度だけでは支えきれない現状があり、地域におけるつながりや支えあいがとても重要です。

身近な地域に相談できる場所、気軽に行ける居心地のいい場所等、つながりの機会が増えていくことで、安心した生活を送れることをめざします。

#### 基本目標 2

【人材づくり】

誰もが生きがいを持って活躍できる縁づくり



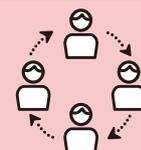
社会的な背景によって、地域の支えあい活動の環境は大きく変化しています。従来型地縁組織やボランティア団体等の地域構成では、担い手の広がりを生み出すことが難しく、後継者不足の問題が生じています。

一人ひとりの興味や得意なことを生かし、「支え手」「受け手」を超えた参加の機会を広げていくことが大切です。また、きっかけづくりや地域活動が気軽で楽しいものであると感じてもらふ工夫、新たな人材発掘のために、社会福祉施設や企業と地域とのつながりを築いたり、こども・若者が地域の活動に参加し、関心を持てるようなきっかけづくりをめざします。

#### 基本目標 3

【体制づくり】

人と人、人と地域がつながる縁づくり



多様な人材を発掘し、様々な活動に結び付けるために、コーディネーターの役割は大切です。地域の身近な存在となることが期待されています。

新しい連携や協働を進めるために、コーディネート力を向上するとともに、地域の取組情報や人材、社会資源を把握し、情報の共有を図ることをめざします。

## 2 重点的な視点



### 子どもの頃から地域との縁をつくる

3つの目標を進める上で、長期的な視野においては子どもと地域をつなぐ取組を進めることが重要な視点となります。家庭や学校以外の居場所をつくり、子どもや若者の育ちを支えること、子どもや子育てに関わる家族が頼れる人を増やすこと、また、地域で体験できる機会を進めることで、子ども・若者の社会生活を支えていきます。

#### 子どもの「孤立」「孤独」を地域のつながりで予防

子どもの人間形成を促す社会経験をする機会や、家族・学校以外の人と関わる機会が乏しくなるとともに、経済状況や家庭環境などにより社会的に孤立しやすい環境にある子どもたちが増えています。

このため、地域の中で日頃から人とのつながりを持てるよう、家庭や学校以外の居場所をつくることや様々な体験ができる機会づくりを進めること、また、子どもの成長を支え、子どもや子育てに関わる家族が頼れる人・場を増やすこと等が重要であり、将来的な「孤立」「孤独」の予防にもつながっていきます。

#### 将来を見据えて子どもの頃から地域とつながること

子どもの頃から、地域の大人とつながる経験を通じて、人間形成、他者への理解を育むだけでなく、地域への愛着も生まれます。地域に関心をもち、地域のためになる活動への協力、地域や社会に貢献する担い手として、子ども・若者が育つことが期待されます。

将来を見据え、子ども・若者が地域に参加・参画できるような取組や工夫を進めていくことが大切です。

第10次計画を進めるうえで、「子どもの頃から地域との縁をつくる」ことに視点をおき、地域福祉活動を進めることが、地域を活性化させていく鍵になると考えます。



## 3 基本目標のそれぞれの取組

### 基本目標1 見守り、支えあう あんしんできる縁づくり



#### 《取組の方向性》

#### 1 居心地のいい場を増やす

「困りごと」「生きづらさ」を抱えている人や地域に住む誰もが、自分らしく、楽しくいられる場・機会をつくるとともに、縁の始まるきっかけを広げ、「孤立」「孤独」の予防を進めていきましょう。

##### 市民一人ひとりの取組(例)

- 1 近所に住んでいる人に関心を持ち、周りの人たちを気に掛ける。
- 2 あいさつを通して知り合うきっかけづくりをする。
- 3 関心のある地域の取組に参加してみる。

##### 地域の取組(例)

- 1 声をかけ合える地域づくりを進める(学校・PTA・地域住民の連携)。
- 2 誰もが受け入れてもらえる、参加しやすい居場所をつくる。  
居場所のポイント：楽しい、受入れてもらえる、役割がある、参加自由、身近にある、誰かを誘いたくなる、多世代交流、好きなことや特技を生かせる。

##### 市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組(例)

- 1 地域の人たちと一緒にあいさつ運動を進める。  
・顔の見える関係づくりの第一歩として地域住民とあいさつを交わす。
- 2 社会福祉施設、企業、商店等が地域に場所を開放し、居心地のいい場を地域に増やす。
- 3 団体や企業の特性を生かした学びの場・体験の場をつくる。
- 4 社会福祉施設等の専門職による相談を身近な場で気軽に受けられるようにする。  
・出張福祉なんでも相談 ・子育てサロン等親子が集まる場で、保育士、栄養士、看護師等の出張相談
- 5 地域の取組を検討する場に参加する。

##### 子どもの頃からの縁づくり トピックス

###### 活動例)

- 1 近所の子どもたちを気に掛ける。
- 2 子ども・若者が様々な体験をできる場づくりを進める。  
・市民活動団体、社会福祉施設、企業等と協力しながら幅広い分野でプログラムを提供  
★芋ほり体験、工場見学、お仕事体験、アート・工作・スポーツ体験等
- 3 子育て世帯、子ども・若者など、世代に合わせた居場所づくりを行い、気軽に相談できるゆるやかなつながりを進める。  
・子育てサロン、子ども食堂、無料学習支援等、様々な居場所

##### 市社協としての取組

- 1 地域の中のつながりづくりを推進します。  
・人と人、人と地域のつながりの大切さを市民に啓発  
★縁づくりカードなどによる意識啓発の検討  
・生きづらさを抱える人が、社会とつながる場づくり  
★専門相談機関と当事者支援を行う市民活動団体との連携
- 2 幼稚園・保育園・学校との連携をつくります。  
・地区とのつながりづくり
- 3 居心地のいい場をサポートします。  
・他市、他地区の取組情報を共有

## 活動事例

### 孤立・孤独を防ぐ交流の場 いろいろなかたちの居心地のいい場所がある

#### 気軽に寄れる近所の人の居場所



**サポートセンター楽らく** (相模台地区社協)  
**楽らく憩いの場** (週3日)  
 お困りごとを地域で支えるためのサポーターを派遣する「地区ボランティアセンターの運営」や「憩いの場」を実施しています。

#### 居心地のいい交流の場



いこいの広場 (星が丘地区社協)



陽だまりカフェ (相武台地区社協)

#### 畑でつながる仲間づくり

畑の作業を通じ、ひきこもりの方や認知症の方、福祉施設を利用する方などが、地域の方との交流を深めています。

毎月1回、畑の耕しや作物の手入れ、種まき、草取り、収穫などのコツを、先輩メンバーに教わりながら交流しています。



しろやまふれあい農園 (城山地区社協)

#### 三世代交流



相生東公園に集い、懐かしの映写機での上映会  
(中央地区社協)

#### ぶらっと上溝 (上溝地区社協)

ぶらっと上溝では地域包括支援センター職員による健康の話や体操の他、演芸大会、駄菓子屋など、様々なイベントが行われています。その中で、毎週火曜日は「かふえみぞ」が開かれ100円で挽きたてのコーヒーをいただけます。

90代の女性スタッフや看板を作った方、演芸が得意な方、いろいろな方がここでは活躍しています。

コーヒーを飲みながら談笑する常連男性の声

- ・散歩をしていたら「コーヒー」とある看板を見て、ぶらっと寄ったことがきっかけです。
- ・ここで知り合いになった仲間に出会えるのを毎週楽しみにしています。
- ・90代女性がいてくれるコーヒーはすごくおいしいんですよ。
- ・同じ年代の人もいるので話が合ってうれしい。たまに若い人にも出会うのもいいね。



## 基本目標1 見守り、支えあう あんしんできる縁づくり



### 《取組の方向性》

## 2 困りごとを発見・共有する

いつでも行くことができる居心地のいい場所や、ゆるやかなつながりの機会が増えていくことで、安心して「困りごと」「悩みごと」などを話せる関係が作りやすくなります。悩みを抱える方に気づき、地域で分かち合い、支える方法をみんなで考えていきましょう。

### 市民一人ひとりの取組(例)

- 1 生きづらさを感じている人が地域にいることを理解する。
- 2 集まりの場や日常の中で、話しやすい雰囲気づくり、人の話に耳を傾ける。
- 3 心配な様子の人がいいたら、地域の支援者や行政、専門相談機関・社協に相談してみる。
- 4 困ったことがあったら、誰かに相談してみる。

### 地域の取組(例)

- 1 地域ぐるみでゆるやかな見守り活動を進める。  
★ゆるやかな見守り(個人一地域ぐるみ一商店などで日常的に行える)
- 2 サロンなどの居場所や地域活動の取組中に、いつもと違う様子に気づき話を聴く。
- 3 つながりの中で気づいた困りごとを地域内で共有する。

### 市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組(例)

- 1 生きづらさを感じている人が地域にいることを理解する。
- 2 心配な様子の人がいいたら、地域の支援者や行政、専門相談機関、社協に相談してみる。  
★企業：業務中に…  
★商店・金融機関等のレジや窓口対応中に…

### 子どもの頃からの縁づくり トピックス

#### 活動例)

- 1 赤ちゃんとその世帯が地域とつながるきっかけづくりを進める。  
★赤ちゃんのいる世帯へ贈り物を届けながら、最初の地域とのつながりづくりを進める。
- 2 地域の居場所や関りの中で、子どもの「きもち」を受け止める。
- 3 子ども・若者の現状や社会的な問題・課題等を知る。

### 市社協としての取組

- 1 気づきのポイントを周知します。  
・地域の人困りごとに気づくポイントを発信し、ゆるやかな見守りを推進
- 2 地域の福祉課題を発信します。  
・CSWの個別支援や民生委員・児童委員の取組事例から地域にある「困りごと」「生きづらさ」を把握し発信
- 3 CSWが把握する孤立・孤独を抱えている人を、地域の支えあい活動につなげます。

# 活動事例

## 地域とつながるきっかけづくり

主任児童委員と民生委員・児童委員が新生児の家族に手作りの赤ちゃんグッズをお届けしています。サロン情報なども伝えながら孤立しないよう地域とつながるきっかけづくりをしています。



こんにちは赤ちゃん！  
さがみこ  
“ぬくもり”支援事業  
(相模湖地区社協)

## 防災グッズで見守りのきっかけづくり



**高齢者等見守り事業**(津久井地区社協)  
高齢者等を対象にあんしん袋(防災グッズ)を配布。水やビスケットを交換するため定期訪問を行い、孤立しがちな高齢者と顔の見える関係づくりを行っています。

## 支えあいなどの活動を継続しながら利用者を見守る



ちょこっと  
ボランティアくらぶ  
(清新地区社協)

## ゆるやかな見守り

ご近所同士のあいさつや声かけなどにより、ご近所を気づかうことで、「支援を必要とする方」をいち早く発見し、深刻な事態の未然防止や災害時にも助け合える関係づくりを進めています。



※自治会の組長や商店へ依頼、サロン等への啓発を行っています。  
(気づきのポイント、連絡の流れ等)  
(田名地区・藤野地区)

## コンビニエンスストアで見守る！

市社協の「福祉の掲示板」に協力中  
(セブンイレブン豊町店)

店のスタッフから「最近どんどん痩せて、商品を持ってきてもお金が足りず購入できないことが続き、足も怪我している様子の常連客がいて心配」という話を聞いた店長が、その方にたずねると、一人暮らしで職も失い食事もとれていないということが分かり、社協へ連絡しました。最終的には医療機関や専門相談につながる事ができました。

市社協の「福祉の掲示板」の協力をしていたことから連絡することができました。



地域の中で見守りや  
声掛けをしてくれる  
お店が増えるといいね！



《取組の方向性》

3 地域や福祉の情報が行き交う

自ら情報を得ることができない人、「困りごと」や「生活のしづらさ」に直面している人などへ必要な情報を届けるなど、地域から孤立しないための取組が必要です。

普段からの住民同士の交流の場などを通して地域の取組や福祉の情報が行き交い、困ったときお互いに支えあえるような情報共有及び提供を進めます。

市民一人ひとりの取組(例)

- ① 地域の情報を入手する。
- ② 必要な人に情報を伝える(口コミ)。

地域の取組(例)

- ① 情報が届きづらい人に地域の取組やサービス・相談窓口等の情報を届ける。
  - ・一人暮らし高齢者等に情報を届ける活動
- ② 日頃からのコミュニケーションの場をつくる。
- ③ SNS等を活用した情報提供をする。

市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組(例)

- ① 市民活動団体や社会福祉施設、企業の持ち味を活かして情報提供をする。
  - ・企業等の情報媒体の活用
  - ★地元情報紙への掲載やスーパー等での配布など身近な場所での情報提供

子どもの頃からの縁づくり トピックス

活動例)

- ① 保育園・幼稚園・学校の情報媒体に地域の取組情報を掲載する。
- ② 地域の情報媒体に保育園・幼稚園・学校の取組情報を掲載する。

市社協としての取組

- ① 地域の情報を共有するための仕組みづくり
  - ・身近な地域の情報を必要な人に届ける仕組みづくりを進める。
  - ★広報紙やホームページに子どもに関する情報欄を設けるなど、保育士等専門職から子育てに役立つ情報を提供する仕組みづくり

# 活動事例

## SNSで情報発信

若い世代に福祉講座や子育てサロン情報など地域の取組等の情報を届けるためにInstagramやブログで呼びかけ。



(横山地区社協のInstagram)  
清新中学校の生徒が花壇活動の様子を作成協力



アニメーション動画「ふくしてなあに？」を  
YouTubeで配信  
(大野中地区社協)



大野北地区社協ブログ  
(親子スペース たけのこの家)

## 地域の子育て情報を集約して提供



地区社協と市担当課が情報収集し、地域の子育てサロンや保育園、幼稚園等で行う広場・相談、子ども食堂などの情報を掲載。関係行政機関、公民館等に掲示  
(津久井地区社協)

## 見守りをしながら情報を届ける

高齢者宅を訪問し、孤立孤独を防ぐために、声をかけ合い情報を届ける等地域の中で関係を築いています。



お元気ですか！訪問事業  
(藤野地区社協)

## 普段の交流やつながりから情報交換



あつまれ親子  
(大野北地区社協)



いこいの広場 木曜喫茶  
(東林地区社協)

## 基本目標 2 誰もが生きがいを持って活躍できる縁づくり



### 《取組の方向性》

#### 1 地域への関心を高める

みんなで支えあえる地域をめざすには、学校や地域における福祉教育を推進し、地域住民や企業・社会福祉施設等とともに「地域への愛着」「地域理解」「福祉についての関心」を高めていくことが大切です。

地域の取組や地域福祉に興味・関心をもつことで、地域福祉の新たな担い手の発掘にもつながることを意識して進めていきましょう。

#### 市民一人ひとりの取組(例)

- ①地域の良さを知る。
- ②地域の人を知る。
- ③地域の取組活動を知る。

#### 地域の取組(例)

- ①地域の温かな話を収集・発信する。  
★地域の取組や人と人とのつながりのエピソードを広めていく。
- ②福祉教育を推進する。  
・学びの場を地域につくる。  
★地域住民や市民活動団体、社会福祉施設、企業等と一緒に福祉教育を進める。

#### 市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組(例)

- ①身近な地域の取組を知る。
- ②身近な地域の情報を職員・従業員に伝える。
- ③地域や市民活動団体と連携し、地域のイベントや支えあい活動に取り組む。

#### 子どもの頃からの縁づくり トピックス 活動例)

- ①こどもたちに地域の活動を知ってもらう。  
・地域の取組情報を発信  
・子どもと一緒に地域情報紙を作成
- ②地域や市民活動団体と連携し、子どもたちが地域のイベントや支えあい活動に参加する機会をつくる。

#### 市社協としての取組

- ①地域の取組を市民に発信します。  
・地域の取組実践や成果をまとめ、広く市民に広めていきます。  
★活躍している人や、人と人とのつながりのエピソードを収集して見える化
- ②福祉教育の視点を共有し、広めていきます。  
・学校、地域住民、関係団体、社会福祉施設等、地域の多様な資源や人をつなぎ、福祉や地域の課題をともに学びながら、地域福祉の土壌を育てていく。  
・福祉教育を通して住民が地域づくりに関わる意義や目的等の理解を深めるよう推進する。  
・地域にある福祉課題を発信し、解決に向けた地域づくりへの関心を高めていく。

活動事例

学校福祉教育に地域団体や住民が協力



地区社協や地区の民生委員・児童委員が学校の福祉教育に協力  
(大島小学校 高齢者疑似体験)

地域の方の声を聞き  
バリアフリーマップ作り

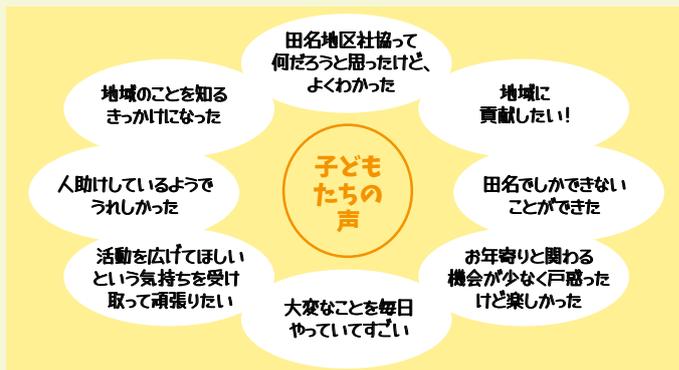


相模大野駅周辺のバリアフリーマップ作成に取り組むクラスに向けて、地区社協の協力のもと福祉教育講座を開催し、当事者や地域の方の声や考えに触れる機会をつくりました。  
(谷口台小学校 令和4年度実施)

地域の福祉活動を子どもたちに知ってもらい参加してもらおう

田名地区社協と田名北小学校6年生

6年生から「地域のために私たちができることはありませんか?」と地区社協に相談が入り、まずは活動を知ってもらおうと1学期は「活動紹介」をし、2学期は自分たちにできることを考えて実際に活動に参加してもらいました。



地域の人たちからの感想

- ◇みんなとカルタをして、とても元気になった。
- ◇子どもたちのラップが聴けて感激でした。
- ◇とてもやさしく丁寧に折り紙を教えてくれた。
- ◇間違ってくれてうれしかった。
- ◇話し相手をしてくれてありがとう。また何度でも来てほしい。
- ◇子どもたちが来てくれている貴重な時間に参加できて良かった。

地区社協活動の説明に熱心に耳を傾ける



地区社協を広める広報紙作り



和い輪い田名でお手伝い



たなワン安心パトロールのチラシ作り





### 《取組の方向性》

## 2 地域で活躍する人を増やす

地域活動を支えている地縁組織やボランティア団体等は、高齢化や活動の担い手不足が深刻な問題となっています。あらゆる世代の方が参加できるよう、興味や趣味・特技など多様な分野で活躍できる機会を増やし、誰もが楽しみや生きがいを持ちながら地域で活躍できる機会を広げることが大切です。身近な地域の「縁」や「つながり」の大切さを実感し、地域の課題を自分たちの課題としてとらえていけるように意識していきましょう。

### 市民一人ひとりの取組(例)

- ①地域の安全安心・見守り活動に参加する。
- ②地域で技術や知識を伝える。
  - ・スマホ教室
- ③好きなこと・得意なこと、できることから地域に参加してみる。

### 地域の取組(例)

- ①新たな人材が活躍する取組を広げる。
  - 楽しく、身近に、気軽に、ついでに、お得にできる活動の場・機会づくり
  - ・地域通貨(ポイント)の活用 ・自転車での移動中や、犬の散歩中に地域の見守り
- ②趣味や特技、好きなこと、できることを生かせる活動の場・機会づくり。
- ③PTAやPTA経験者など、子どもや地域に関心のある大人が参画する機会をつくる。

### 市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組(例)

- ①スキルや持ち味を生かして活躍する。
  - ・プロボノ※として専門知識を地域活動に生かす。
- ②職員・社員の活動を応援する。
  - ・ボランティア休暇の推進 ・地域貢献、ボランティア活動の担当者を配置する。
  - ・社員教育や研修の一つとして地域活動に取り組む。

※「プロボノ」とは、「公共善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」を語源とする言葉で、「社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献活動」を意味します。

### 子どもの頃からの縁づくり トピックス

#### 活動例)

- ①子ども・若者が地域の取組に参画する。
  - ・地域のおまつりを企画・実施したり、地域の見守り活動に参加
  - ・子どもが主体的に地域の活動を考え、行動する機会づくり
- ②子どもや若者が主体的に地域活動で活躍する場・機会づくりを進める。
  - ・中・高等学校の部活動と地域の取組のコラボ
- ③地区社協や民生委員・児童委員等が小・中・高等学校の福祉講座に協力する。
- ④社会福祉施設の職員が専門性(保育士・栄養士等)を生かした子育てサロンや子どもの居場所づくりに協力する。

### 市社協としての取組

- ①子ども・若者の活躍の場をつくります。
  - ・子どもや若者が興味をもてるような参加のあり方を検討する。
- ②子ども・若者のボランティア活動者を広げるために、活動を紹介する機会をつくります。
- ③福祉のキャリア教育を推進します。
  - ・福祉分野の人材不足対策として、次世代へ福祉の魅力を伝え福祉の仕事を知る機会を進める。
- ④市民に向けて実践事例を紹介し、福祉活動へ興味をもってもらい賛同者を増やします。
  - ・地域や法人・企業の取組事例を収集し、発信する。
- ⑤地域や市民活動団体と法人・企業との情報共有の場づくりを進め賛同者を増やします。

# 活動事例

## 地域の助けあいに参加



新磯ちょこっとサポートしたい(新磯地区)  
特技を生かして地域の困りごとを支援

## 地域との接点が少ない高齢者・障がい者に社会参加の場を提供



ツキ・イチおねがいプロジェクト(相模台地区社協・地域包括支援センター)で袋詰め等の作業

## PTA経験者(OB)が地域の担い手に



光が丘地区子ども応援団(会員60名)  
(光が丘地区社協)

子どもたちにとって安全安心な環境が守られるように「いつでも」を心掛け、学校地域団体と協力して見守り活動を行っています。

他に、段ボール迷路の貸し出し運営、講座開催、中学生まちづくり会議の運営、子ども食堂の協力、登校支援などを行っています。

## 福祉施設利用者が活躍



得意な「けん玉」を子どもたちに教えています。  
(第3けやき)



地区社協広報紙を配送する活動  
(津久井やまゆり園)

## 高校生が地域で活躍



「夏休み宿題やろうよルーム」  
(相模原高校×横山地区社協)

## 散歩のついでに地域をパトロール

地域のゆるやかな見守りによって、犯罪抑制や高齢者世帯、小さな子どもを見守っています。



「やさしさいっぱい星が丘 みんなでおさんぽ・パトロール」  
(星が丘地区社協)

## 基本目標 2 誰もが生きがいを持って活躍できる縁づくり



### 《取組の方向性》

## 3 地域の取組を応援する

地域活動を継続していくためには、周囲からの応援やサポートが非常に重要です。周囲の人々からの支援は、活動への意欲を高め、活動を継続・発展させるための後押しとなります。

そのためにも、一人ひとりが活動の進捗や成果に目を向け、活動への理解を深めましょう。

#### 市民一人ひとりの取組(例)

- ① 地域活動に賛同し参加する。
- ② 自宅の空きスペースや所有している空き地などを地域の活動の場として提供する。
- ③ 気になる活動に寄付する。

#### 地域の取組(例)

- ① 地域の取組への理解者を増やす。
- ② 地域にある困りごとを発信し、取組の成果を伝える。
- ③ 寄付の成果を直接寄付者に伝える。  
サンクスレター(応援してくれる人々や団体に、感謝の気持ちを示す)

#### 市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組(例)

- ① 場所・物資・人材等の提供
- ② 賛同する課題やテーマに取り組む地区や活動団体を応援する。  
・企業の持ち味を提供
- ③ 法人募金や、職域募金を実施し、地域活動を応援する。

#### 子どもの頃からの縁づくり トピックス

##### 活動例)

- ① 子ども・若者に対し、地域活動を伝える機会をつくる。
- ② 学校等で寄付教育を進め、募金活動への理解を深める。
- ③ 子ども・若者を支援する地区の取組や活動団体を応援する。  
・寄付、商品・食材・場所の提供  
・市民活動団体、社会福祉施設、企業等の持ち味を提供

#### 市社協としての取組

- ① 地域の課題や取組を市民に発信し、協力者を募ります。  
・人材や物資、地域活動拠点、寄付など
- ② 地域の活動団体、企業、関係機関との連携を促進し地域福祉課題を共有します。  
・地域の子ども・若者をサポートする団体等と課題を共有し把握する
- ③ 共同募金運動の推進に取り組みます。  
・共同募金は地域福祉の推進を図ることを目的とした募金です。地域住民の方からの戸別募金、駅頭、学校などで取り組まれる街頭募金や校内募金、企業等からの法人募金など趣旨を分かりやすく伝え、共同募金運動の推進に取り組みます。

# 活動事例

## 募金集めから地域の課題の取組に協力



上鶴間高校が文化祭で集めた募金を地区社協に寄付しました。そのお金で地区社協は文具を購入し子ども食堂に来る子どもたちに配布しました。(上鶴間高校 × 大野南地区社協)

## 法人が住民の買い物移動支援をサポート



### 麻溝地区移動支援古山台クラブ

高齢でバス停までの歩行が困難な方を対象に、あさみぞハウス(社会福祉法人 喜楽会)とリッチフィールド(社会福祉法人慈母会)の協力により、スーパーまで送迎をいたします。

## 企業が取り組む貢献活動

村内ファニチャーアクセス相模原の取組



てらこや食堂ラッキーズへの食材寄付

## 共同募金活動

「勇気」と「良い行い」のシンボル!



毎年共同募金で協力してくれる  
(大沢幼稚園)



「ありがとう&よろしく」と  
気持ちを込めて和太鼓演奏!

## 地域の子どもたちが交流する場を開催! (小山地区社協)

小山地区では、中央区内でも子どもの数が多く、世帯数も増え始めているなか、令和4年度に子ども会が解散。地域と子ども・子育て世帯との関係が希薄化していることを、地域課題として地区社協でも受け止めていました。

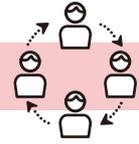
そんな中、地域コミュニティ支援を実施する「AWS In Communities」\*の助成により、子どもたちの体験の機会を実施することができました。  
※Amazonクラウドコンピューティングサービス

- 子ども達の声  
「楽しかった」「友達もできた。また行きたい」
- 保護者の声  
「なかなかできない経験なのでとても良い機会だった」



さつまいも掘りや工作体験、パン工場見学などを行い交流

## 基本目標 3 人と人、人と地域がつながる縁づくり



### 《取組の方向性》

#### 1 コーディネート力を高める

多様な人たちと出会い、様々な活動に結び付けるためには、「コーディネート」の視点」が大切です。

人やモノ、場所をつなぐ「コーディネート」の視点」を持つ人が地域に増えることで、多くの活動や支えあいの選択肢が地域に生まれます。

地域の課題やニーズを受け止め、人、モノ、場所、情報といった地域の「資源」と結びつける、コーディネート力を高めていきましょう。

##### 市民一人ひとりの取組(例)

- 1 普段から意識をもつ。
  - ・身近な人の良いところや身近な人の困りごとに意識をもつ。
- 2 人材・情報などのネットワークをつくる。

##### 地域の取組(例)

- 1 地域の困りごとや地域の状況を知る。
- 2 身近なところで相談できる環境をつくる。
  - ・地域で「困りごと」を相談できるようにする。
  - ・地域で「活動したいこと」を相談できるようにする。
  - ・「困りごと」や「活動したいこと」をつなげる。
- 3 ボランティアの登録ができる仕組みづくりを進める。

##### 市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組(例)

- 1 企業・法人として地域とともに取組に参画する。
- 2 従業員・職員と地域貢献活動を調整する仕組みをつくる。

##### 子どもの頃からの縁づくり トピックス

###### 活動例)

- 1 子ども・若者のできること、得意なことを地域活動につなげる視点をもつ。
- 2 地域活動の意味を子ども・若者に伝える。
- 3 地域で活動する大人たちの姿を見る機会をつくる。
- 4 子ども・若者がボランティア登録のできる仕組みづくりを進める。

##### 市社協としての取組

- 1 地域のコーディネート力向上のための研修会や情報交換会を進めます。

# 活動事例

## 地区ボランティアセンター



コーディネーター会議で利用者の状況やボランティア対応を検討しています。  
(城山助けあい支えあいセンター)

## 会社の職場内で活動者を募りつなげる

学習支援団体に社員が参加



食料支援団体への配送協力

会社の地域貢献担当者が社員へ呼びかけ、活動に結びつけています。(富士工業株式会社)

### 困ったわ!の巻



## コーディネーターは、こんなことを考えていました

暮らしぶり、生活上の困りごとを把握する

- 山口さんは一人暮らしで身寄りが近くにいないらしい。草むしりの他にゴミ捨てなど、困っていないかな?
- 困ったらすぐに言ってもらえるような関係を作ろう。

地域との縁づくりを意識する

- 山口さんと地域の人とつながりを持たせてあげたいな。
- 山口さんの好きなことや得意なことで地域の活動に結び付けられたら、生きがいを持てるんじゃないかな。
- 地域に知り合いが増えていけるといいな。

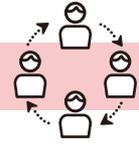
### 好きなことを生かせたら!の巻



誰でも参加できる地域になったらいいね



## 基本目標 3 人と人、人と地域がつながる縁づくり



### 《取組の方向性》

## 2 地域社会資源を活用する

地域福祉活動の推進には、地域資源の情報を個人や団体に共有することが大切です。情報が得られやすいと福祉活動が始めやすく、関心をもってもらうことやきっかけを増やすことにつながります。

地域資源※の情報をつかみ活用するよう心掛けていきましょう。

※地域の課題を支える上で、必要とされる施設、設備、資金、物資、また集団や個人がもつ技能や知識などの総称。

### 市民一人ひとりの取組(例)

- ① 地域にある社会資源等の知り得た情報を伝える。
- ② 社会資源の活用方法を考える。

### 地域の取組(例)

- ① 地域の人材や社会資源を把握する。
    - ・ 学校の部活動や市民活動団体、趣味の会などを地域の資源として把握し、ボランティア活動を進める。
    - ・ 社会資源や人材の情報を共有できるしくみをつくる。
- ★「さがみはらみんなの地域情報ナビ」の活用(地域にある社会資源をデータベース化) P45 参考

### 市民活動団体、社会福祉施設、企業等の取組(例)

- ① 企業の持ち味等を地域に発信する。
  - ・ 団体ができることや得意なこと(人材、活動の拠点など)の発信
- ② 地域にある社会資源を把握する。
  - ・ 商店街の活性化にもつながる空き店舗の再利用
  - ・ 地域活動スペースの利用や学校の余裕教室の提供

### 子どもの頃からの縁づくり トピックス

#### 活動例)

- ① 子育て情報や遊び場情報などを収集し、取りまとめて地域に発信する。

### 市社協としての取組

- ① 地域にある社会資源をデータベース化し、見える化を図ります。
  - ★「さがみはらみんなの地域情報ナビ」の活用の促進
- ② 地域づくりをサポートします。
  - ・ データベース化した情報を活用し、福祉活動に関心のある人や市民活動団体、社会福祉施設、企業等のネットワーク化
- ③ 地域課題に対しての取組と法人・企業とのマッチングの仕組みづくりを進めます。

# 活動事例

## 空き家、空き店舗の活用で地域住民の福祉活動拠点が誕生



空き家を拠点とした住民の交流の場  
ふれあいの家ぬくもり（橋本地区社協）

### 書道教室が住民同士の助けあい活動の拠点に



おやま生活サポートセンター（小山地区社協）

### 蕎麦屋さんが交流の場に



交流の場 和い輪い田名（田名地区社協）

## 地域資源の情報提供のしくみ

令和4年度から5年度にかけて相模原市より市社協が受託した「重層的支援体制整備モデル事業（地域づくり事業）」において、地域福祉を推進する上で必要な地域資源の情報提供の仕組みの検討が行われ、パソコン・スマートフォン等で、地域の医療・福祉・ボランティア団体・地域の拠点等の活動内容・場所の情報を検索できるwebサイト「さがみんナビ（さがみはらみんなの地域情報ナビ）～みんなで地域をつくろう～」(右図)が令和6年度に導入されることになりました。

地域の活動や取組などがつながり、連携できるように地域の情報をまとめ共有するためのサイトです。

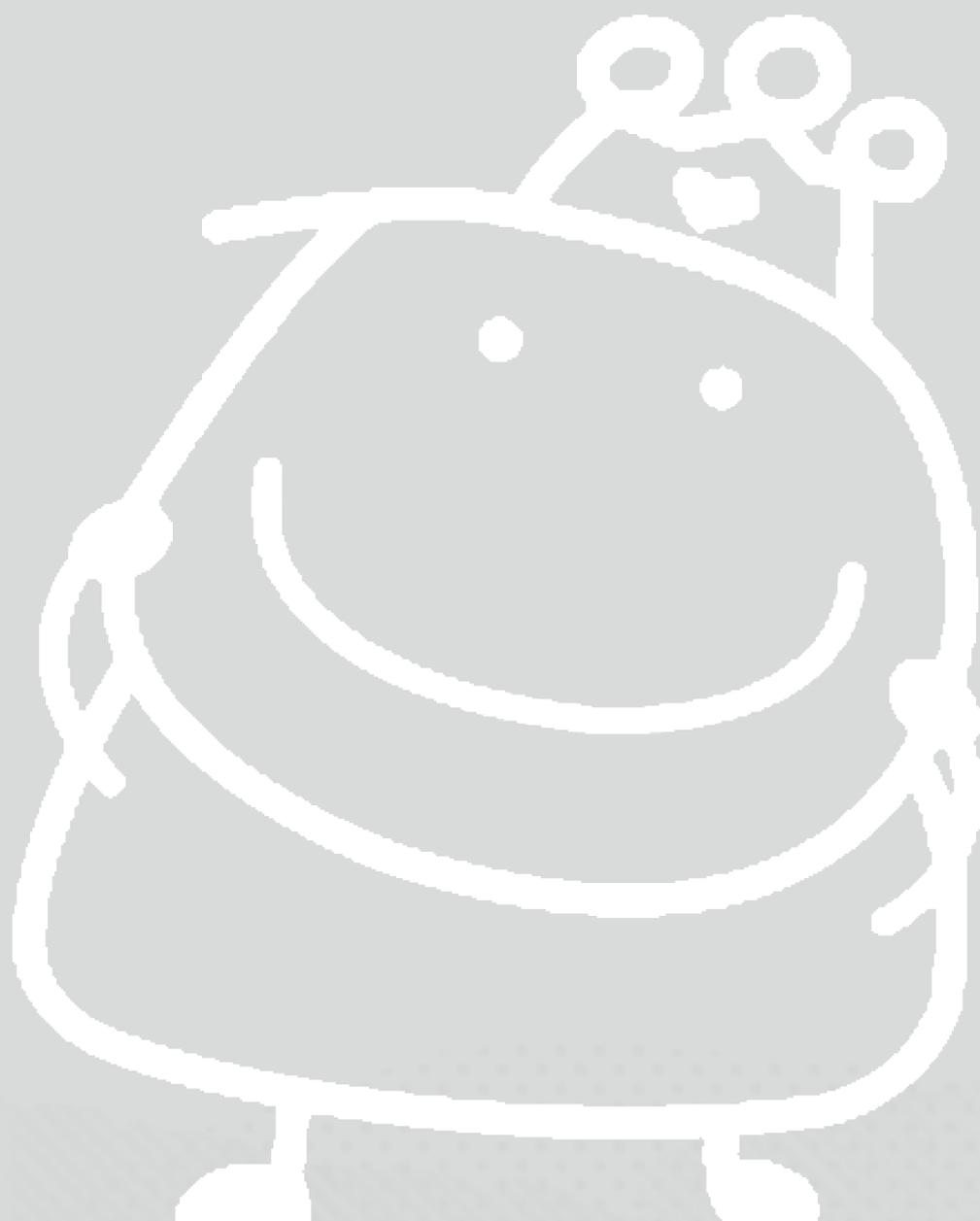
住民の方が地域の情報を検索することができるようになるため、必要なサービス等につながりやすくなります。





# 第4章

## 計画を進めるための 相模原市社会福祉協議会の取組



# 1

## 計画を進めるための市社協の取組 ～地域共生社会の実現～

「一人ひとりが活躍できる縁づくり」に向けて重点的に取り組む内容

### 1 地域における縁づくりを促進

#### ① 小地域の支えあい活動を促進します。

##### ① 支えあい活動の魅力を発信

地域における顔の見える関係を築いていくために、一人ひとりが地域の活動に興味・関心を持ち、参加や応援してもらえる地域福祉活動の魅力発信に取り組めます。

##### ② 地域の横断的なつながりづくり

地域にある福祉課題の解決に向け、地域住民や学校、社会福祉施設、企業などの社会資源の横断的なつながりづくりを進め、支えあい活動を支援します。

##### ③ 縁づくりの見える化

住民が人との関わりの中で気がついた温かなエピソード「いい人」や「いいこと」などを集め、それを広く伝えることで他者への気づきや自身の行動を再認識するきっかけづくりを進めます。

#### ② 誰もが参加できる機会・場づくりを進めます。

市社協に寄せられる相談・支援（高齢者や障がい者、子ども・若者、生活困窮世帯等）を通じて把握した「困りごと」「生きづらさ」を発信し、地域の社会資源を生かし、誰もが参加できる機会・場づくりを進めます。

### 2 子どもの頃から地域との縁づくりを促進

#### ① 子どもと地域のつながりづくりを進めます。

子育て世帯や子どもの孤立・孤独の予防に向け、身近な地域で相談できる民生委員・児童委員をはじめ、子育てサロンや子どもの居場所等につながるきっかけづくりを進めるとともに、子どもの状況や課題を把握している市民活動団体等と連携し、取組を支援します。

#### ② 子ども・若者の地域活動への参加を促進します。

次世代の担い手育成に向け、福祉の理解促進や地域の取組、ボランティア活動への関心を高めるとともに、子ども・若者が参加しやすい環境づくり、活躍できるメニューづくりを進めます。また、様々な体験活動の機会づくりを推進し、子どもの社会性や「思いやり」など豊かな人間性を育み、地域とのつながりづくりを進めます。

### 3 関係機関・団体等との縁づくりを促進

#### ① 高齢者・障がい者等の権利擁護の充実を図ります。

権利擁護支援を必要とする人を迅速に適切な支援につなげていくために、福祉・法律をはじめ、不動産関係など権利擁護に関わる専門職団体等とのネットワークを広げていきます。また、成年後見制度の普及・啓発、更なる利用促進に取り組むとともに、地域とのつながりづくりを進めます。

#### ② 多機関協働による総合的な支援を進めます。

複合化・複雑化する相談に対し、自立支援相談窓口や福祉事務所等の関係行政機関、関係専門機関と連携を図り、生活の安定に向けた総合的な支援に取り組めます。

#### ③ 企業・法人とのパートナーシップづくりを進めます。

社会福祉施設が持つ専門性や企業の特徴・持ち味を地域の取組に生かせるよう、地域・市民活動と社会福祉施設、企業等とのネットワーク化を図り、人材・拠点・ノウハウの相互連携を進めます。

## 2 計画の進行管理と点検・評価

### 1 進行管理と点検・評価

第10次計画における縁づくりの実践事例や成果等を広く市民に発信し、地域福祉活動の啓発に取り組みます。

また、年度ごとに、地域福祉活動計画の進行状況や市社協の取組に対する自己評価を行い、市社協理事会、評議員会等からの意見などをもとに進行管理を行います。

なお、新たな課題や情勢の変化が生じた場合は、地域の福祉関係者や学識経験者等で構成する委員会等を設置し、課題解決に向けた検討を進めます。

### 2 点検・評価の時期

令和8年度と令和10年度に中間評価を行い、中間期及び後半期の本計画の推進に反映させます。また、令和11年度に計画期間全体を通しての推進状況について評価を行い、次期(第11次)計画の策定に生かすものとします。

R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
第10次計画						新計画
		●R6・7の 点検・確認  ●必要に応じて 見直し		●R8・9の 点検・確認  ●第10次計画の 検証と第11次 計画策定に 向けて検討開始		

市の計画と地域福祉活動計画は連携して進めていきます！

基本理念

みんなで支えあい 地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら

第5期相模原市地域共生社会推進計画の体系

施策の方向性

基本目標1  
体制づくり

誰もが自分らしく地域で暮らしていくため、福祉サービスや支援体制を充実します。

1 一人ひとりが尊重され、誰にでもやさしく、暮らしやすい環境を整備します。

2 身近な地域で相談を受けられることができる体制を充実します。

3 生活に困窮する人への支援体制を充実します。

4 支援を必要とする人に対する福祉サービスを充実します。

基本目標2  
人材づくり

地域福祉の担い手となる人材の確保・育成に取り組むとともに、福祉分野の専門的な人材の育成・支援を進めます。

5 福祉について、知る、学ぶ機会を充実します。

6 地域で活動する担い手の確保に取り組みます。

7 専門的な福祉人材の育成・確保・支援に取り組みます。

基本目標3  
関係づくり

住民相互の支えあいの関係づくりを促進し、ネットワークの力で地域を支えます。

8 地域の支えあいを促進して、支援を必要とする人を見守ります。

9 地域住民が交流できる機会を充実します。

10 地域での様々な取組をつなげて、支援の輪を広げます。

第10次さがみはら地域福祉活動計画の取組方針

取組方針

基本目標1  
関係づくり

見守り、支えあう  
あんしんできる縁づくり

1 居心地のいい場を増やす

2 困りごとを  
発見・共有する

3 地域や福祉の情報が  
行き交う

基本目標2  
人材づくり

誰もが生きがいを持って活躍できる縁づくり

1 地域への関心を高める

2 地域で活躍する  
人を増やす

3 地域の取組を応援する

基本目標3  
体制づくり

人と人、人と地域が  
つながる縁づくり

1 コーディネート力を  
高める

2 地域社会資源を  
活用する



# 第10次さがみはら地域福祉活動計画 策定にあたって

計画の策定にあたり、私たちは課題を見つめるところからはじめました。私たちの生活上の「困りごと」は複雑化して解決がより難しくなりました。また「困りごと」は外からは見えにくくなり、声を上げられない人も増えています。地域の支えあいなどの活動に参加する余裕を持つことができないという声も聞こえてきました。こうした環境の変化が子どもたちの生活に大きく影響していることもわかりました。

しかし、これまでの地域の活動について振り返ると、様々な可能性があることに気づきました。コロナ禍でも「困りごと」に対する取り組みや、子どもたちを支える取り組みが続けられていました。アンケートからは、地域をよくするために「自分にできることをやりたい」と考えている方、いろいろな「好き」や「得意」をもっている方が大勢いることがわかりました。この冊子では課題だけではなく、地域の様々な取り組みや皆さんの想いもたくさん紹介しています。

地域にはこの計画を読んでもらっている皆さんを含め、様々な想いや力を持っている方が大勢います。第10次さがみはら地域福祉活動計画では地域の皆さん一人ひとりの想いや力を繋いで、複雑化した「困りごと」に取り組むことができるよう「縁」を大切にするというコンセプトでまとめました。今ある「縁」を大切にしつつ、これから出会う「縁」にも期待して、皆さん一緒にこの計画を進めていきましょう。よろしくお願いします。

令和6年3月

地域福祉活動計画等策定委員会

委員長 松 崎 吉之助

(相模女子大学人間社会学部准教授)

## 策定をふりがえって～委員の皆さんの声～



令和4年11月に発足してから、8回の会議を重ねてきました。

当初から、地域への熱い想いをたくさん話して合ってきました。

それぞれの立場は違うけれど、「みんながつながって、地域を良くしたい!」という想いは一緒です。

めざすべき地域になるように、住民の皆さん、関係機関の方々と力を合わせて取り組んでいけたらと思います。

【事務局】

とても賑やかで活発な雰囲気の中で計画策定活動に取り組むことができました。委員の皆様、事務局の皆様にご心から感謝申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。

【松崎委員長】

縁があり委員として計画に参加できました、委員の皆様から様々な情報をいただき勉強になりました。地域福祉の充実に向け、この縁を大切に地域活動に励みます。

【安藤副委員長】

新たな出会い、「縁」を感じつつ充実した記憶が残る委員会でした。「多様な縁づくり」地域のみなさんとともに、がんばります。

【田所委員】

民生委員・児童委員は、人と人、人と専門機関とのつなぎ役。たくさんの縁のつなぎ目になればと思います。

【戸部委員】

今回の委員を通じて、たくさんの人の想いに触れることができ、貴重な経験となりました。

【佐藤委員】

委員として参加し、私自身たくさんの縁づくりができました。多くの人がこの活動計画を生かし、縁づくりをしていただけたら幸いです。

【山田委員】

課題解決の原点は世代を超えた人の繋がりだと感じています。今後も「ご縁」を大切に将来を見据えた地域づくりに参画していきたいと思えます。

【加賀谷委員】

地域共生社会の実現に向けて、地域と市社会福祉協議会、市が一丸となって取組を進めるため、市地域共生社会推進計画と本計画を連携して進めます。

【高本委員】

### 地域福祉活動計画策定委員

【任期：令和4年11月～令和6年3月】(順不同・敬称略)

	氏名	所属
1	◎松崎吉之助	相模女子大学
2	○安藤 和実	橋本地区自治会連合会
3	田所 恒男	田名地区社会福祉協議会
4	戸部恵美子	相模台地区民生委員児童委員協議会
5	佐藤 浩史	上溝地域包括支援センター
6	山田 龍	地域活動支援センター第3けやき
7	加賀谷育子	ちゃれんじ光が丘
8	高本 辰彦	相模原市健康福祉局地域包括ケア推進部

◎委員長 ○副委員長





# 第10次 さがみはら地域福祉活動計画

発行日 令和6年3月

発行 社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会

〒252-0236 相模原市中央区富士見6丁目1番20号

電話 042-730-3888 FAX 042-759-4382

みんなであい、地域の力が育む 人にやさしいまち さがみはら



社会福祉法人  
相模原市社会福祉協議会  
マスコットキャラクター  
「にこまる」